

能勢町障がい者計画、
能勢町障がい福祉計画及び障がい児福祉計画の
見直しのためのアンケート結果報告書
【手帳所持者及びサービス受給者】

令和8年7月

目 次

I. 調査の概要	1
1. 調査目的	1
2. 調査方法	1
3. 調査対象	1
II. 調査結果	2
あなたご自身のことについて	2
障がいの状態について	8
要介護認定や障がい福祉サービスなどの利用について	11
日常生活について	16
相談について	26
情報収集について	31
就労について	35
火事や地震、豪雨(台風・暴風)などの災害時のことについて	39
権利擁護について	42
感染症の対策について	52
今後の取り組みについて	53
就園・就学について	56

I. 調査の概要

1. 調査目的

能勢町では、誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくりを目指して、今回、障がい福祉計画及び障がい児福祉計画の策定を行います。

本アンケート調査は、障がいのある方々の日常生活などに関することをお聞きし、現行計画の見直し及び次期計画の策定に向けた基礎資料とすることを目的として実施しました。

2. 調査方法

(1) 調査期間 令和8年4月6日～4月30日

(2) 調査方法 郵送配布・郵送回収及びWeb回答

3. 調査対象

(1) 調査対象

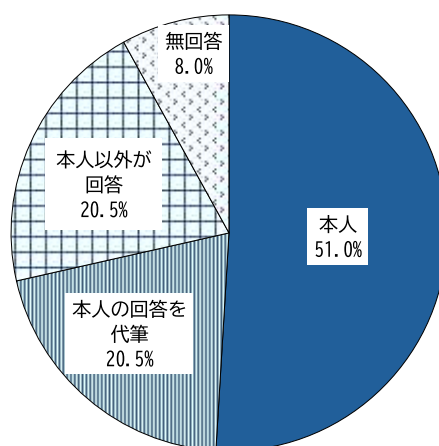
本町に居住する身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳所持者及びサービス受給者

(2) 調査対象者数と有効回答者

調査対象者数	有効回答数	有効回答率
722	361	50.0%

※有効回答数は、いずれかの設問に回答があった方を対象としてカウントしています。

(3) 調査票の記入者



■本人 ■本人の回答を代筆 ■本人以外が回答 ■無回答

※ 回答形式が単一回答の設問の％表示は四捨五入で端数処理を行っていますので、合計が100%にならない場合があります。

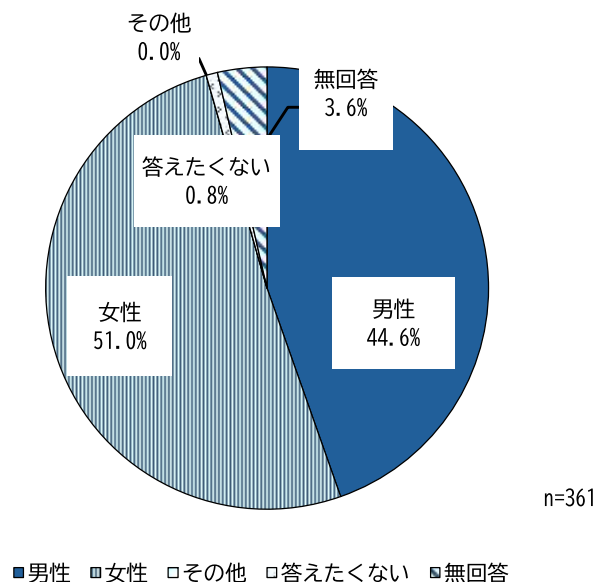
※ 回答形式が複数回答の設問における集計結果は、当該設問の回答者数を母数(n)として算出しています。なお、複数回答の性質上、各選択肢は回答数の積み上げとなるため、無回答については他の選択肢と同様に扱うことが難しいため、集計対象には含めていません。

II. 調査結果

あなたご自身のことについて

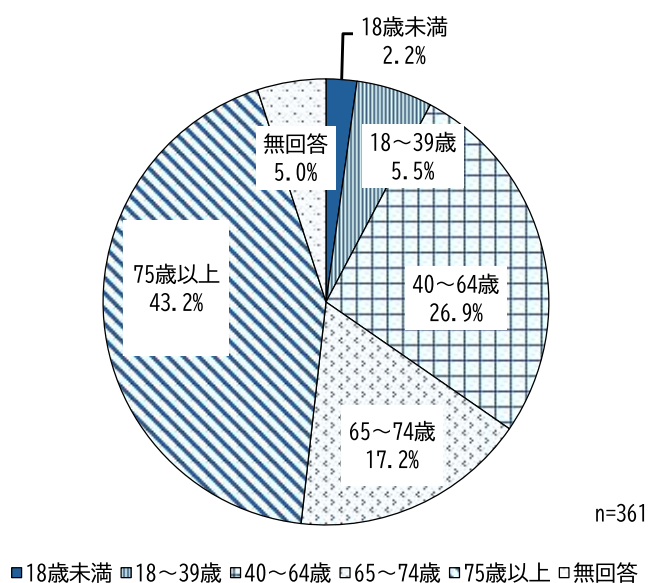
問1 あなた(あて名のご本人)の性別をお答えください。(○は1つのみ)

「男性」が44.6%、「女性」が51.0%となっています。



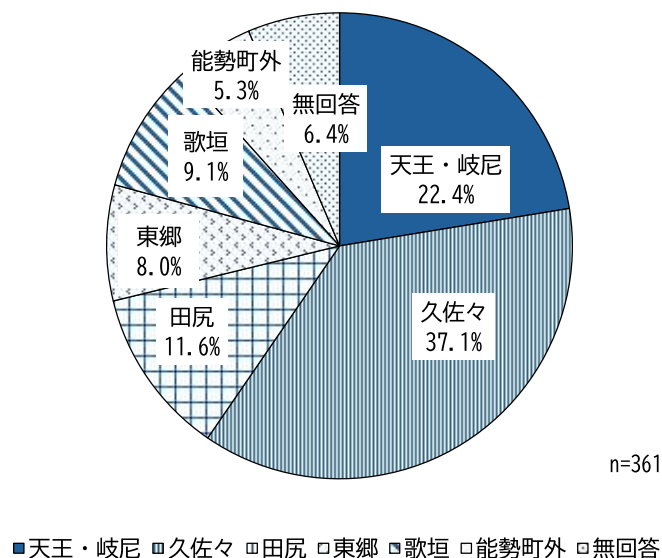
問2 あなたの年齢をお答えください。(令和8年4月1日時点)

「75歳以上」が43.2%でもっとも多く、次いで「40～64歳」が26.9%、「65～74歳」が17.2%となっています。



問3 あなたがお住まいの地区をお答えください。(○は1つのみ)

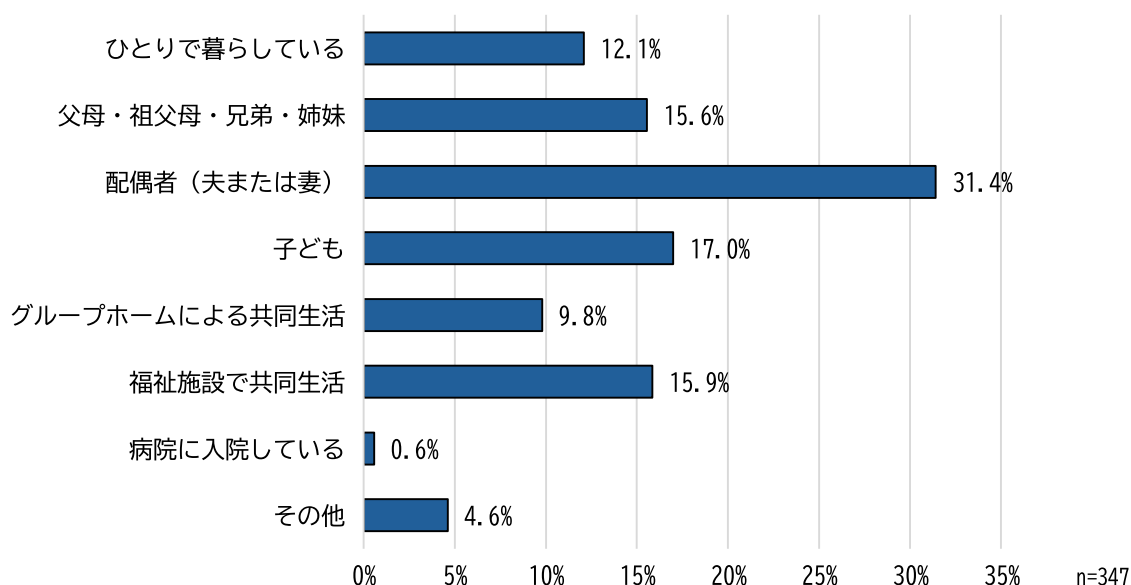
「久佐々地区」が37.1%、「天王・岐尼地区」が22.4%、「田尻地区」が11.6%、「歌垣地区」が9.1%、「東郷地区」が8.0%の順になっており、「能勢町外」は5.3%でした。



問4 現在、あなたがいっしょに暮らしている人は、どなたですか。(あてはまるものすべてに○)

「配偶者(夫または妻)」が31.4%でもっとも多く、次いで「子ども」が17.0%、「福祉施設で共同生活」が15.9%、「父母・祖父母・兄弟・姉妹」が15.6%の順となっています。

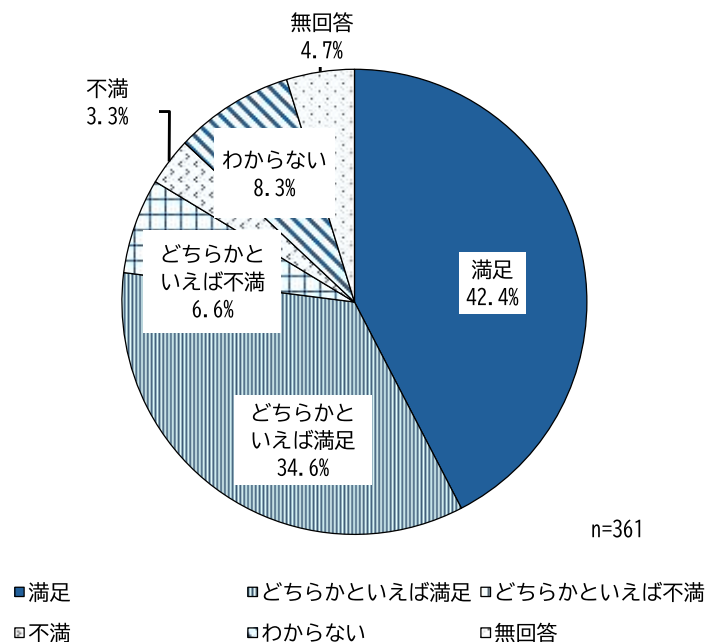
「ひとりで暮らしている」は12.1%で、「グループホームによる共同生活」は9.8%となっています。



問5 現在のお住まい(自宅・施設など)に満足していますか。(○は1つのみ)

「満足」が42.4%でもっとも多く、次いで「どちらかといえば満足」が34.6%、「どちらかといえば不満」が6.6%の順となっています。

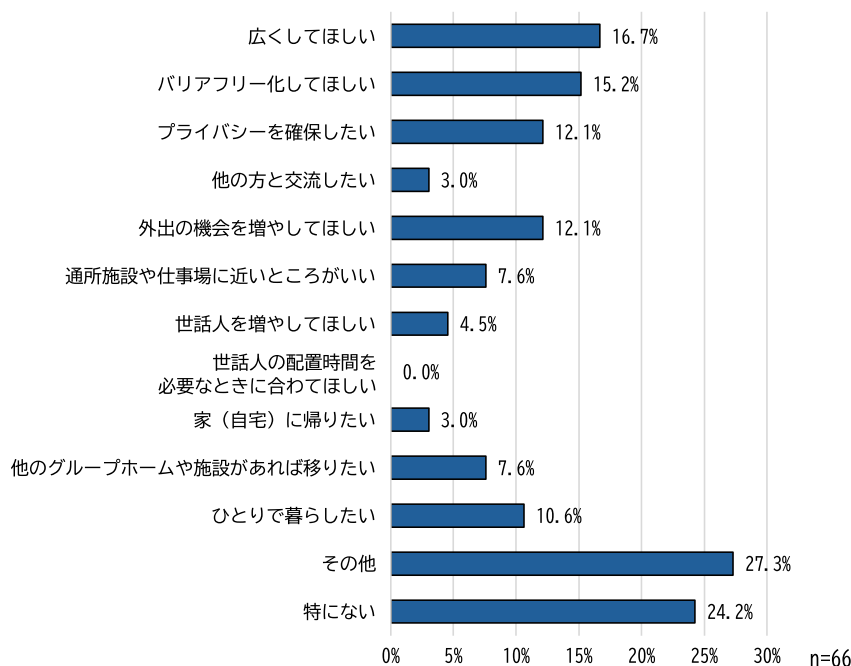
【満足(「満足」または「どちらかといえば満足」)】が77.0%、【不満(「どちらかといえば不満」または「不満」)】と回答した割合が9.9%となっています。



問5-1 問5で「どちらかといえば不満」、「不満」を選んだ方のみお答えください。

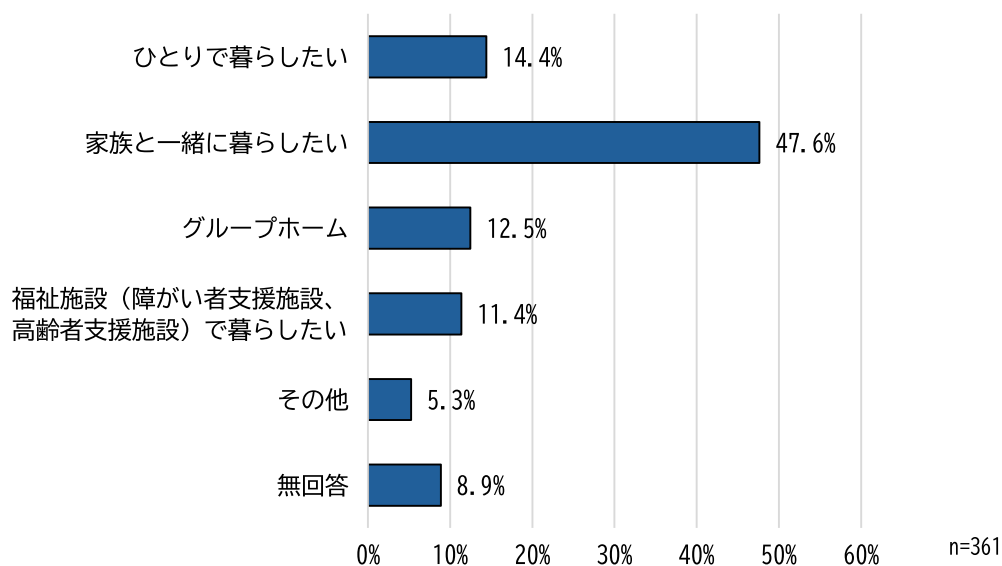
住まいについてどのような要望がありますか。(あてはまるものすべてに○)

「広くしてほしい」が16.7%、次いで「バリアフリー化してほしい」が15.2%、「プライバシーを確保したい」「外出の機会を増やしてほしい」が共に12.1%の順となっています。回答がもっとも多い「その他」の内容としては、「静かな場所で暮らしたい」「自分のペースで生活したい」「気が合う人と暮らしたい」といった生活環境に関する希望のほか、通院先までの距離や交通利便性に関する意見などがありました。



問6 あなたは、今後どこで暮らしたいですか。（○は1つのみ）

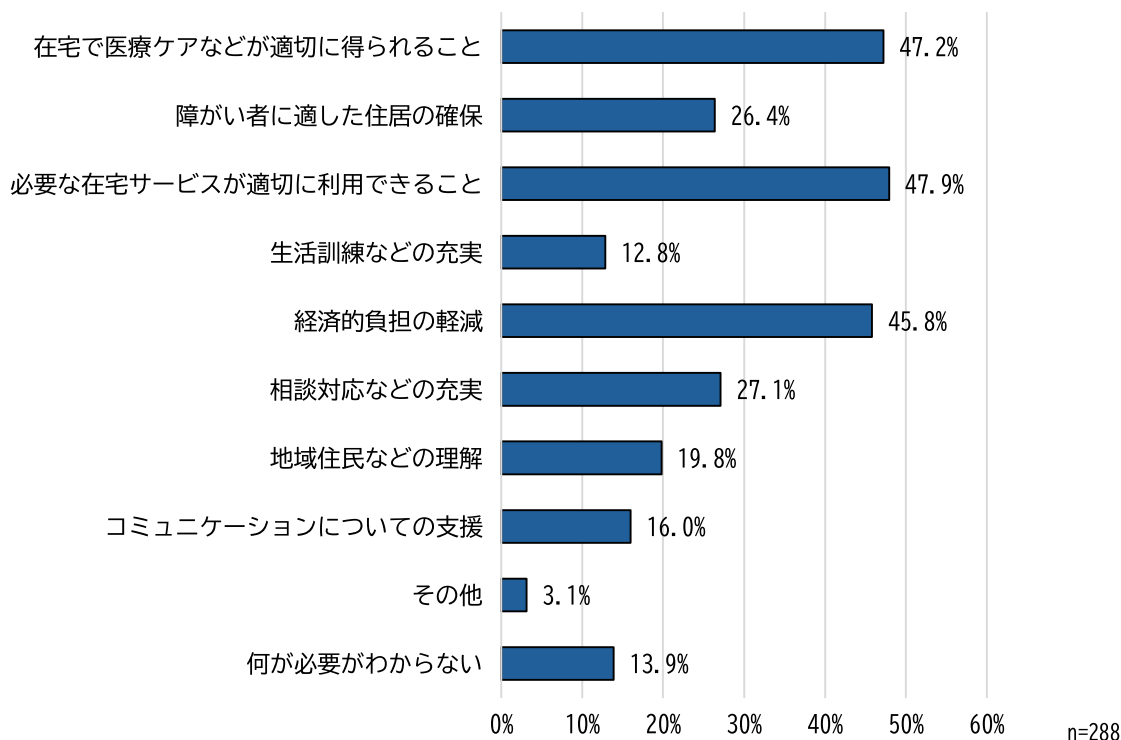
「家族と一緒に暮らしたい」が 47.6%と最も多く、次いで「ひとりで暮らしたい」が 14.4%、「グループホーム」が 12.5%の順となっています。



問7 問6で「ひとりで暮らしたい」、「家族と一緒に暮らしたい」、「グループホーム」、「その他」のいずれかを選択した方のみお答えください。

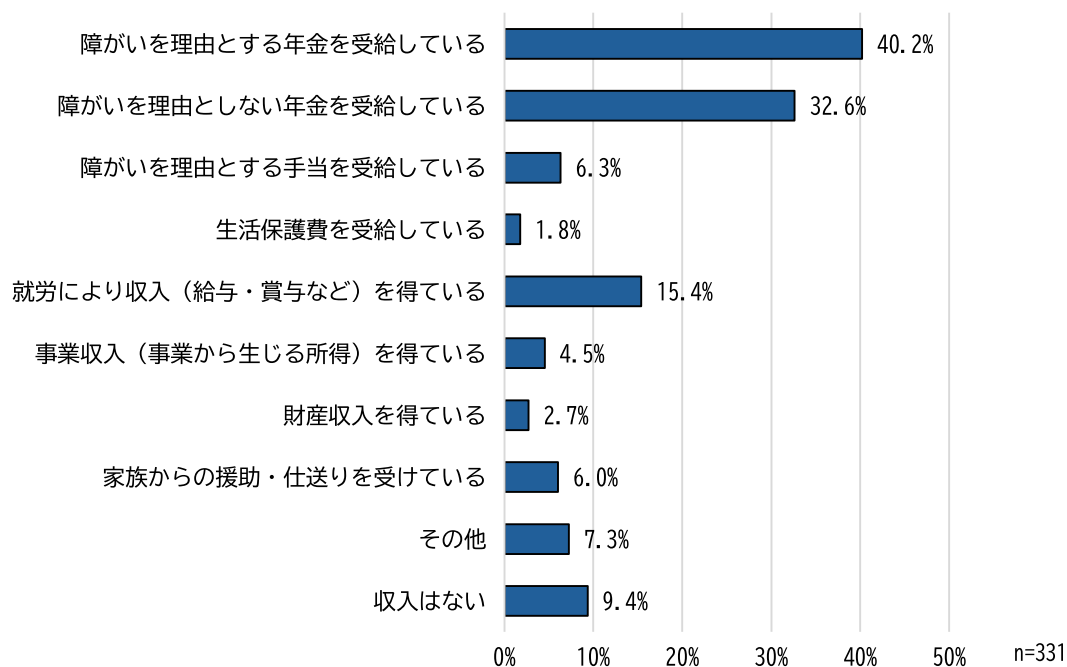
福祉施設以外で暮らすのに必要と思うものを選んでください。（あてはまるものすべてに○）

「必要な在宅サービスが適切に利用できること」が 47.9%で最も多く、次いで「在宅で医療ケアなどが適切に得られること」が 47.2%、「経済的負担の軽減」が 45.8%の順となっています。



問8 あなたの経済状況についてお答えください。(あてはまるものすべてに○)

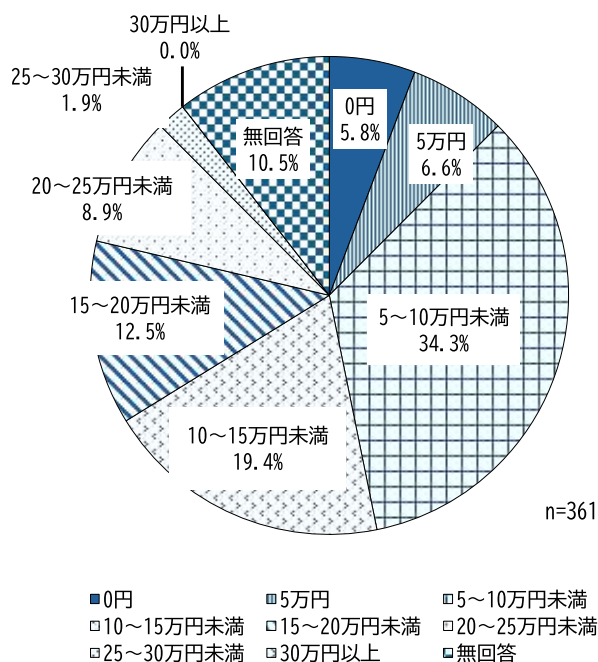
「障がい」を理由とする年金を受給している」が40.2%でもっとも多く、次いで「障がい」を理由としない年金を受給している」が32.6%、「就労により収入(給与・賞与など)を得ている」が15.4%の順となっています。



問9 あなたの月平均の収入をお答えください。(○は1つのみ)

(収入には、あなたが働いて得た収入、就労支援施設等からの収入のほか、年金・手当等を含めてください。)

「5～10 万円未満」が34.3%でもっとも多く、次いで「10～15 万円未満」が19.4%、「15～20 万円未満」が12.5%の順となっています。



「あなた自身のことについて」 結果からの考察

- 回答者の年齢構成は「75 歳以上」が 43.2%を占めており、本町の障がい者の高齢化が顕著であることがうかがえます。今後の障がい福祉施策では、加齢に伴う身体機能の低下や認知機能の変化を踏まえた支援、介護保険サービスとの円滑な接続がより重要となります。
- 同居の状況では「ひとりで暮らしている」が 12.1%、グループホームや福祉施設での共同生活を合わせると 25.7%となっており、家族介護に頼らない暮らしを支える在宅サービスや住まいの場の確保が必要です。
- 住まいへの満足度は 77.0%と比較的高い一方、要望としては「広さ」「バリアフリー化」「プライバシーの確保」「外出機会の確保」が挙げられ、居住環境の質的向上が課題として挙がっています。
- 今後の暮らしの希望は、「家族と一緒に暮らしたい」が 47.6%と最も多く、家族とともに地域で暮らし続けたいという意向が強いことがうかがえます。
- 在宅生活を継続するために必要なものとしては「必要な在宅サービスが適切に利用できること」「在宅で医療ケアなどが適切に得られること」「経済的負担の軽減」がいずれも 45%を超えており、これらのニーズに対応するため、サービスを必要とする人がサービスに適切に繋がることのできるための情報提供や相談支援体制の充実、在宅医療体制の強化、各種手当や助成制度の周知・活用支援等を通じた経済的負担の軽減を図ることが必要です。

障がいの状態について

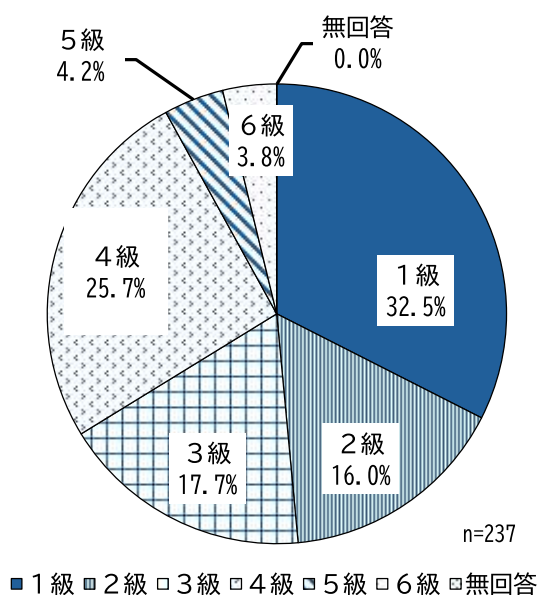
問 10 あなたがお持ちの障がい者手帳について、手帳の等級(障がいの程度)をお答えください。

(それぞれ1つだけに○)

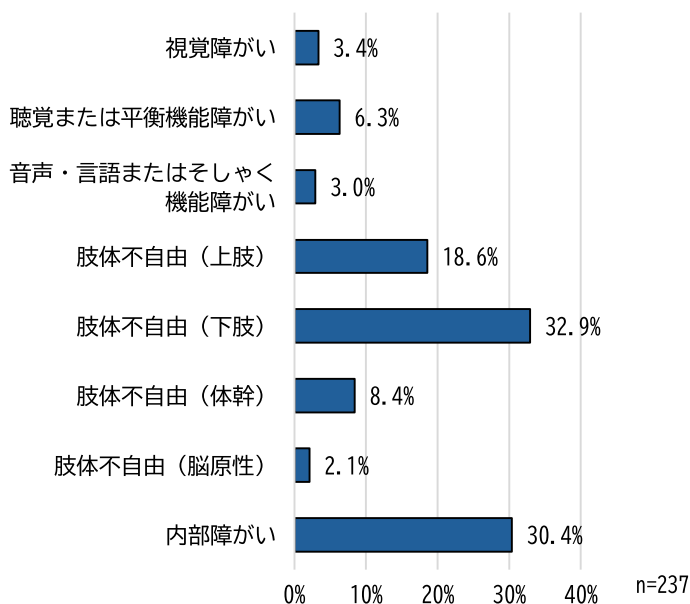
身体障がい者手帳は、「1級」が32.5%、「2級」が16.0%、「3級」が17.7%、「4級」が25.7%、「5級」が4.2%、「6級」が3.8%となっています。

障がいの種類は、「肢体不自由(下肢)」が32.9%と最も多く、次いで「内部障がい」が30.4%、「肢体不自由(上肢)」が18.6%の順となっています。また、肢体不自由を合計すると62.0%となります。

身体障がい者手帳の等級



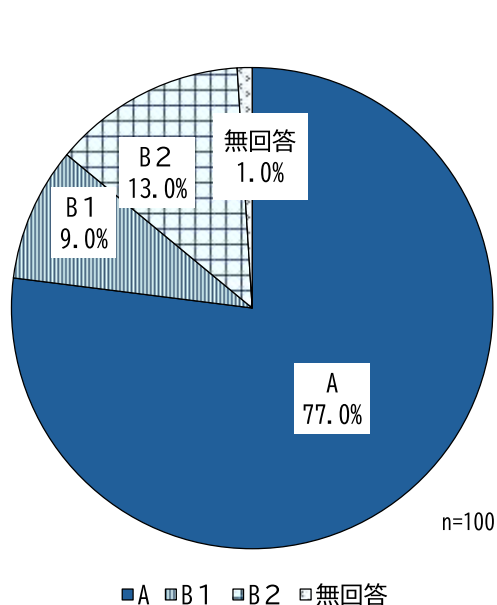
障がいの種類



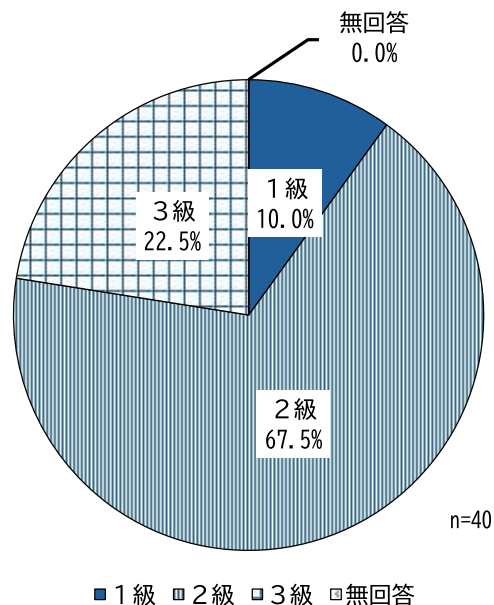
療育手帳は、「A」が77.0%、「B1」が9.0%、「B2」が13.0%となっています。

精神障がい者保健福祉手帳は、「1級」が10.0%、「2級」が67.5%、「3級」が22.5%となっています。

療育手帳の等級



精神障がい者保健福祉手帳の等級



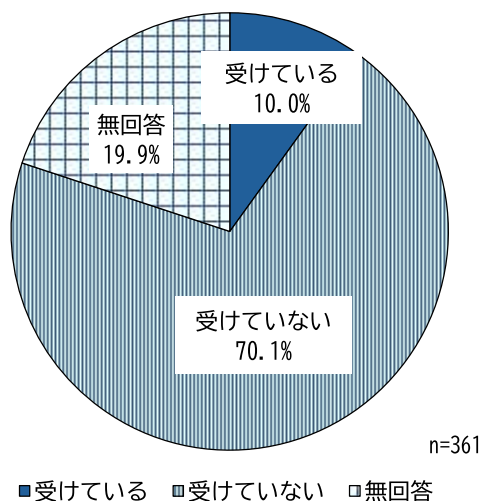
問 10-2 あなたは発達障がいの診断を受けていますか。(○は1つのみ)

問 10-2-1 診断結果はどのようなものでしたか。(あてはまるものすべてに○)

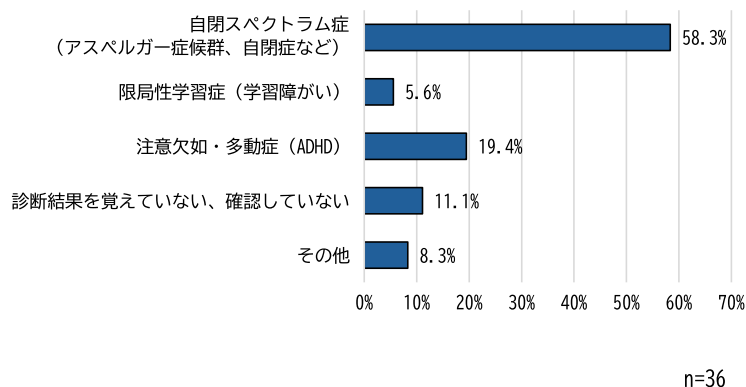
発達障がいの診断を「受けている」が10.0%、「受けていない」が70.1%となっています。

診断結果は、「自閉スペクトラム症(アスペルガー症候群、自閉症など)」が58.3%でもっとも多く、次いで「注意欠如・多動症(ADHD)」が19.4%となっています。

発達障がいの診断

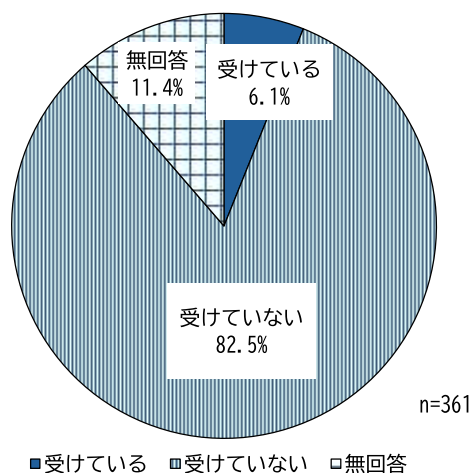


診断結果



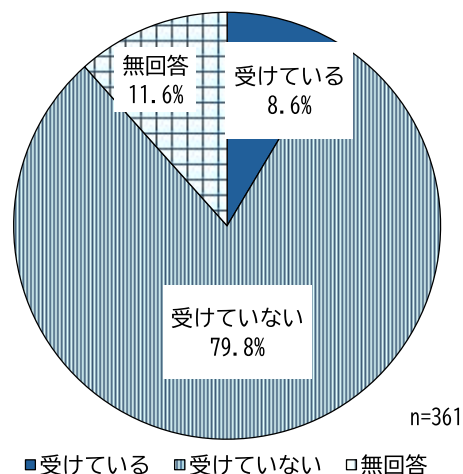
問 10-3 あなたは高次脳機能障がいの診断を受けていますか？(○は1つのみ)

「受けている」は6.1%となっています。



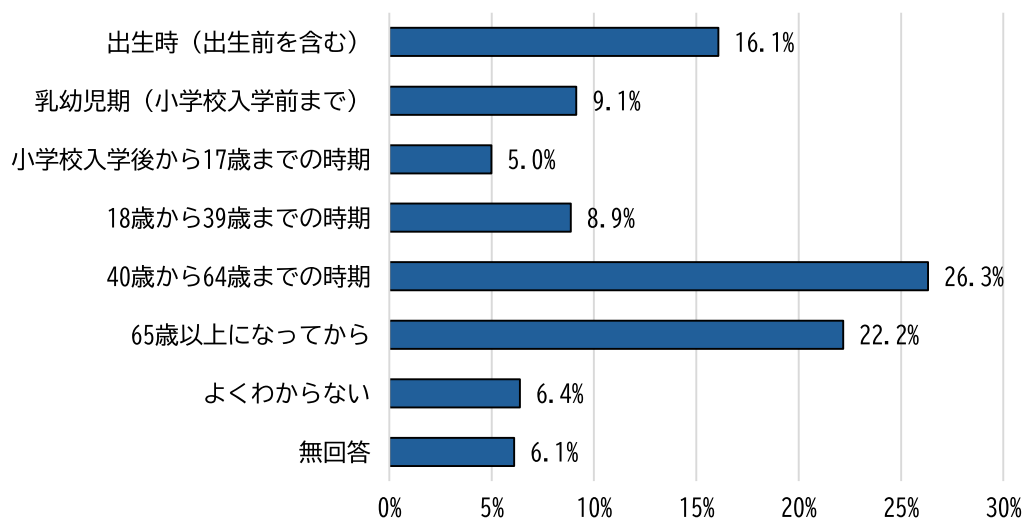
問 10-4 あなたは指定難病の診断を受けていますか？(○は1つのみ)

「受けている」は8.6%となっています。



問 11 あなたが現在の障がいの状態になったのはいつ頃ですか。(複数の障がいをお持ちの方は、最初の障がいの状態についてお答えください。)(○は1つのみ)

「40 歳から 64 歳までの時期」が 26.3%でもっとも多く、次いで「65 歳以上になってから」が 22.2%、「出生時(出生前を含む)」が 16.1%の順になっています。



n=361

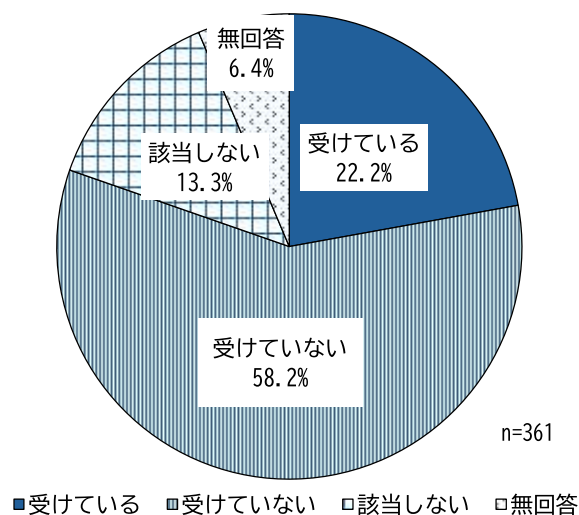
「障がいの状態について」 結果からの考察

- 身体障がい者手帳の所持者では「1級」が 32.5%と最重度区分がもっとも多く、肢体不自由(上肢・下肢・体幹・脳原性の合計)が 62.0%、内部障がい が 30.4%を占めるなど、重度かつ多様な身体的支援ニーズが存在することがわかります。
- 療育手帳では最重度の「A」が 77.0%を占め、精神障がい者保健福祉手帳では「2級」が 67.5%を占めています。
- 発達障がいの診断を「受けている」は 10.0%、高次脳機能障がいは 6.1%、指定難病は 8.6%であり、いずれも一定数の該当者が存在しています。これらは外見からはわかりにくい障がいであることから、本人や家族が早期に気づき、必要な支援に繋がれるよう、対象となるサービスや利用できる相談窓口について周知の継続が必要です。
- 障がいの状態になった時期は「40～64 歳」が 26.3%、「65 歳以上」が 22.2%と中途障がい者が約半数を占めています。疾病や加齢に伴い障がいを抱える層への支援、リハビリテーションや就労継続支援、相談体制の整備が求められます。

要介護認定や障がい福祉サービスなどの利用について

問 12 あなたは、介護保険によるサービスを受けていますか。(○は1つのみ)

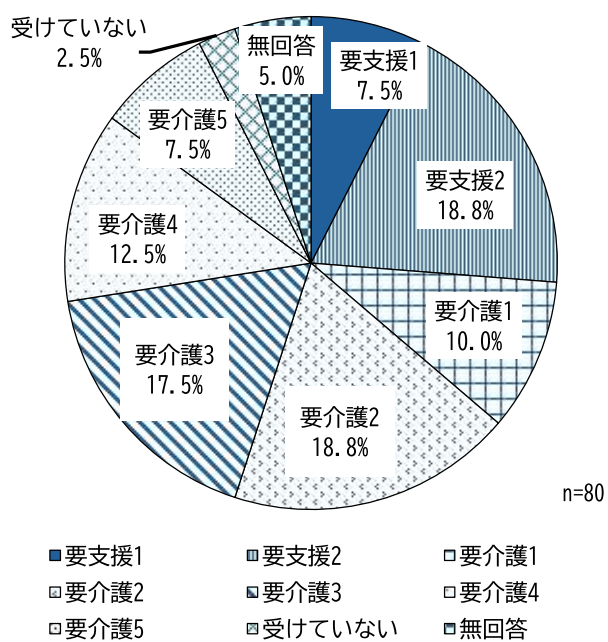
「受けている」は 22.2%で、「受けていない」は 58.2%となっています。



問 12-1 問 12 で「受けている」を選んだ方のみお答えください。

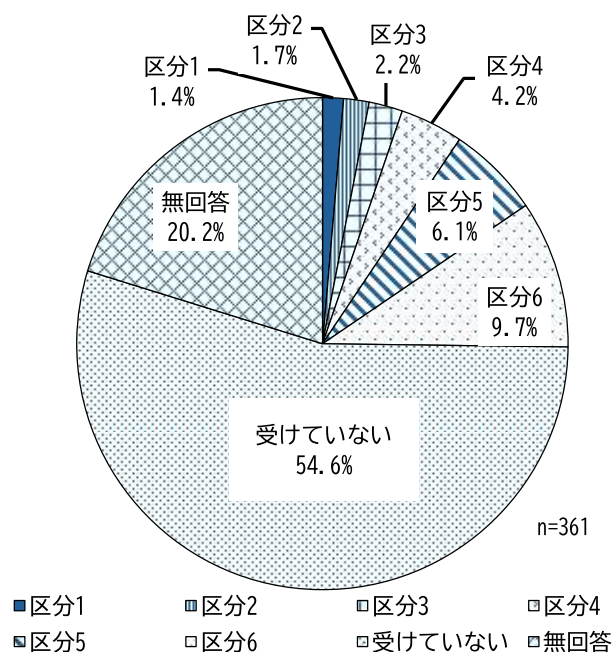
あなたは、介護保険の要介護認定を受けていますか。(○は1つのみ)

「要支援 2」「要介護2」が 18.8%でもっとも多く、次いで「要介護 3」が 17.5%、「要介護 4」が 12.5%の順になっています。



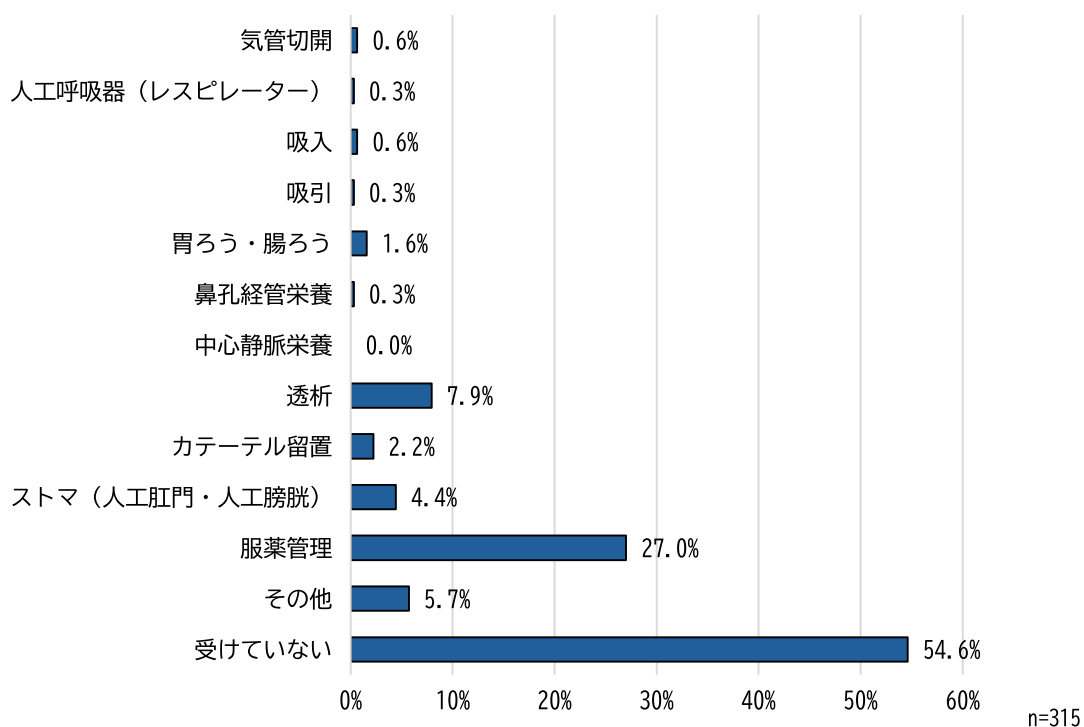
問 13 あなたは、障がい支援区分の認定を受けていますか。(○は1つのみ)

認定を受けている方の中では、「区分 6」が 9.7%でもっとも多く、次いで「区分 5」が 6.1%、「区分 4」が 4.2%の順になっています。「受けていない」は 54.6%となっています。



問 14 あなたが現在受けている医療ケアをお答えください。(あてはまるものすべてに○)

「服薬管理」が 27.0%でもっとも多く、次いで「透析」が 7.9%、「ストマ(人工肛門・人工膀胱)」が 4.4%の順になっています。「受けていない」が 54.6%となっています。



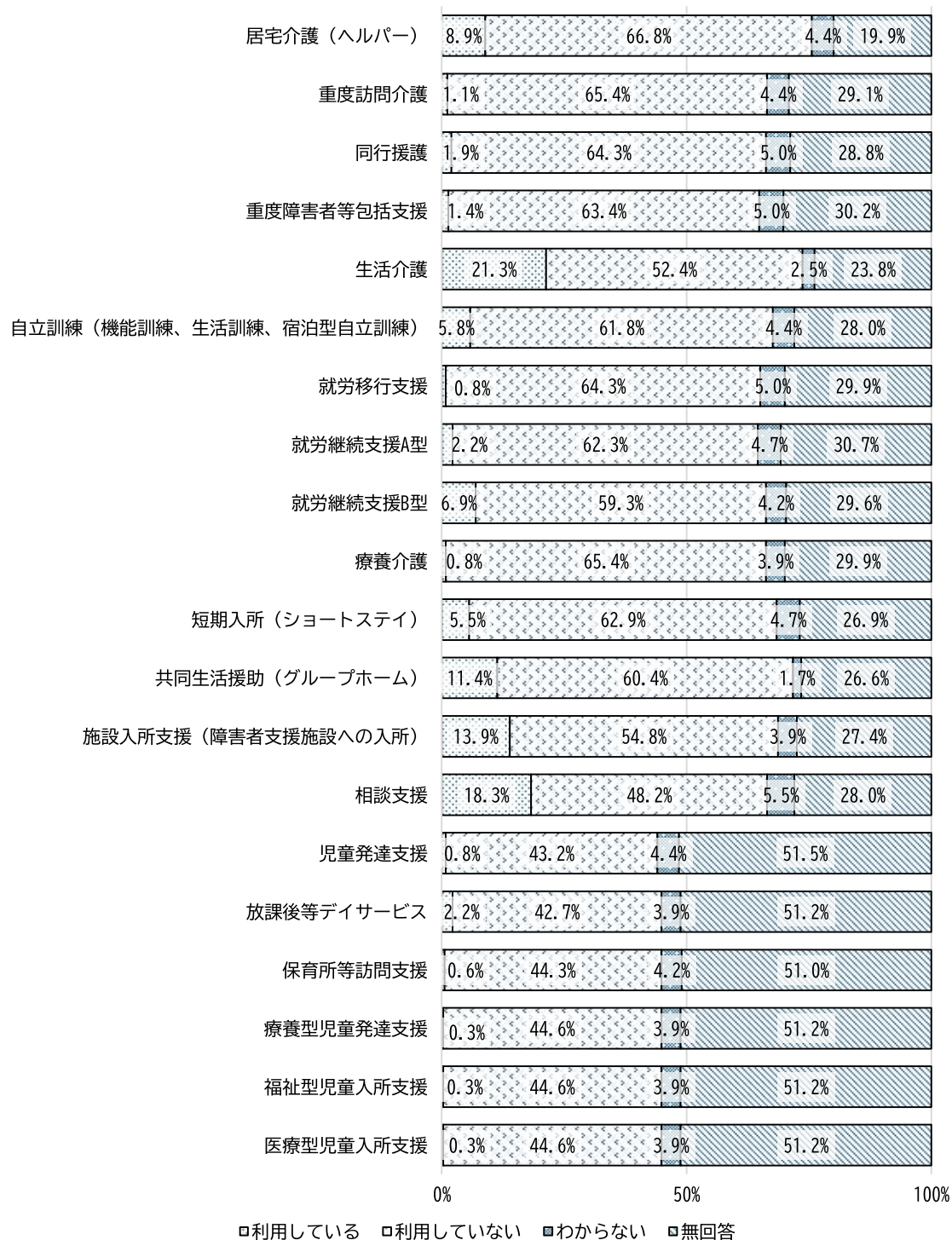
問 15 あなたは、以下のサービスを利用していますか。また、今後利用したいと考えますか。

(「現在利用しているか」に○を1つ、「今後利用したいか」に○を1つ)

すべてのサービスで「利用していない」が「利用している」よりも多くなっています。

利用しているサービスでは、「生活介護」が 21.3%でもっとも多く、次いで「相談支援」が 18.3%、「施設入所支援(障害者支援施設への入所)」が 13.9%の順になっています。

現在利用しているか

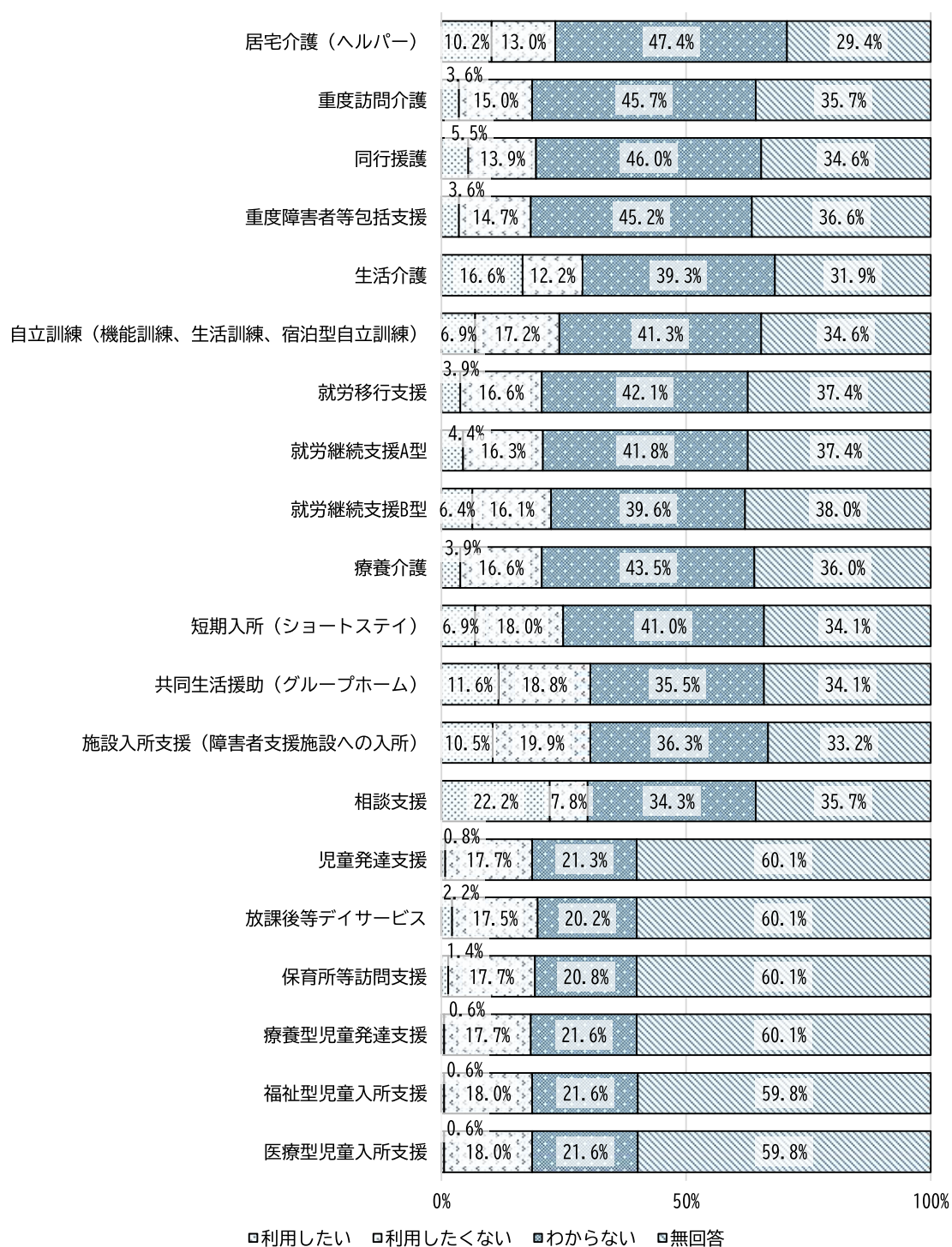


n=361

今後利用したいサービスは、「相談支援」が 22.2%でもっとも多く、次いで「生活介護」が 16.6%、「共同生活援助(グループホーム)」が 11.6%となっています。

「相談支援」「生活介護」以外のサービスについては、「利用したくない」の回答が「利用したい」よりも多くなっています。

今後利用したいか



n=361

問 16 問 15 の「●障がい児サービス」で、5(今後利用したくない)を選択した方で、理由などありましたら、ご自由に記入してください。

●障がい児サービス：児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援、療養型児童発達支援、福祉型児童入所支援、医療型児童入所支援

回答内容としては、年齢的に対象外であることや、対象者が身近にいないため、障がい児サービスの対象者に該当しないという意見が多く見られた。また、将来的な利用について、前向きに検討している意見もあった。

カテゴリー	回答内容
対象者が身近にいない	家族に障がい児がいない
該当しない	対象年齢ではないため
現時点で必要ない	現在は必要としていない
将来的な利用に関心あり	現在は自分で対応できるが、出来なくなったときにはサービスを受けてみたい
その他	サービスを受けず町外へ出る選択をする可能性もある

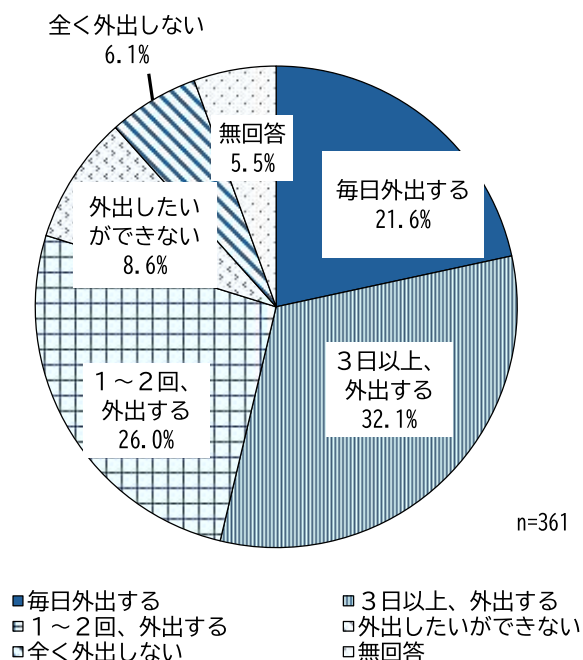
「要介護認定や障がい福祉サービスなどの利用について」 結果からの考察

- 介護保険サービスを「受けている」は 22.2%であり、65 歳以降の制度切り替え時の支援格差を生じさせないよう、介護保険と障がい福祉サービスの両制度を切れ目なく利用できる調整・相談体制の充実が必要です。
- 受けている医療ケアでは「服薬管理」が 27.0%、「透析」が 7.9%、「ストマ」が 4.4%となっており、医療的支援を必要とする人に対しては、通院や医療処置とあわせて日常生活の支援が継続的に行われるような環境整備が求められます。一方、医療ケアを「受けていない」が 54.6%を占めており、ケアが必要となる前の予防的なアプローチも重要となります。
- 障がい福祉サービスの利用状況をみると、すべてのサービスで「利用していない」が「利用している」を上回り、今後の利用意向についても「利用したくない」が「利用したい」を上回るサービスが多いです。一方でサービスを必要としていても利用に繋がっていない層の存在も想定されるため、周知や相談支援を通じて必要な支援に繋げていくことが重要です。

日常生活について

問 17 あなたは、1週間にどれくらい外出しますか。（○は1つのみ）

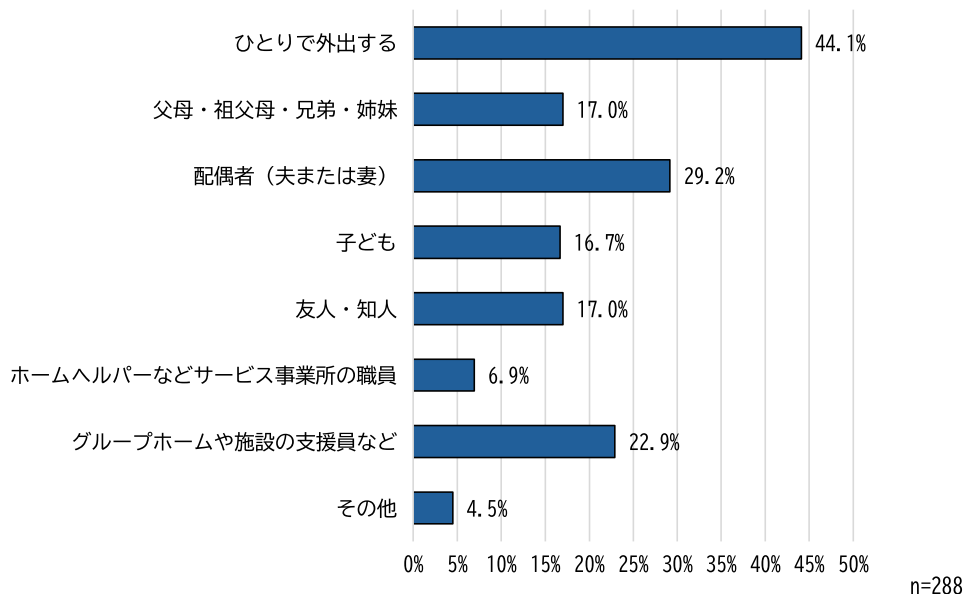
「3日以上、外出する」が32.1%でもっとも多く、次いで「1～2回、外出する」が26.0%、「毎日外出する」が21.6%の順になっており、79.7%が外出しています。



問 17-1 問 17 で「毎日外出する」、「3日以上、外出する」、「1～2回、外出する」のいずれかを選択した方のみお答えください。

あなたは、外出する際に誰と外出しますか。（あてはまるものすべてに○）

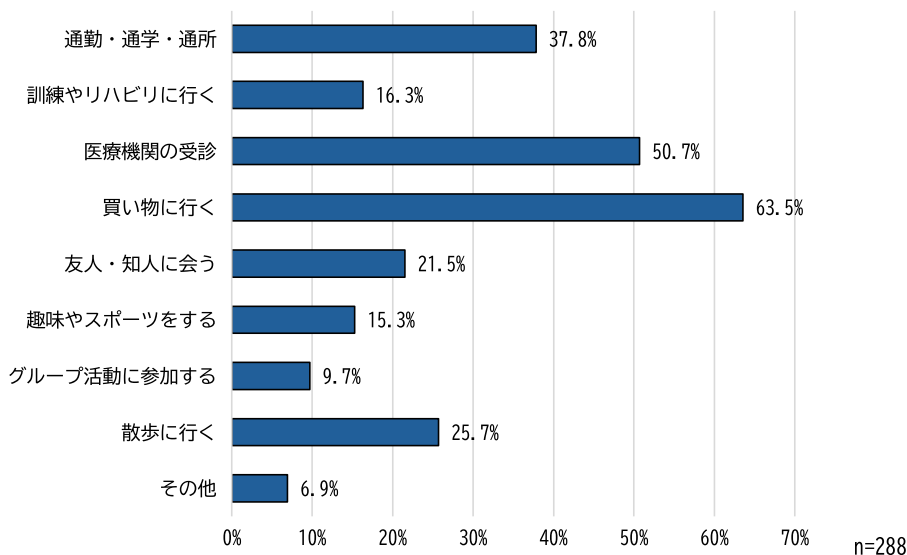
「ひとりで外出する」が44.1%でもっとも多く、次いで「配偶者（夫または妻）」が29.2%、「グループホームや施設の支援員など」が22.9%の順になっています。



問 17-2 問 17 で「毎日外出する」、「3日以上、外出する」、「1～2回、外出する」のいずれかを選択した方のみお答えください。

あなたは、どのような目的で外出することが多いですか。（あてはまるものすべてに○）

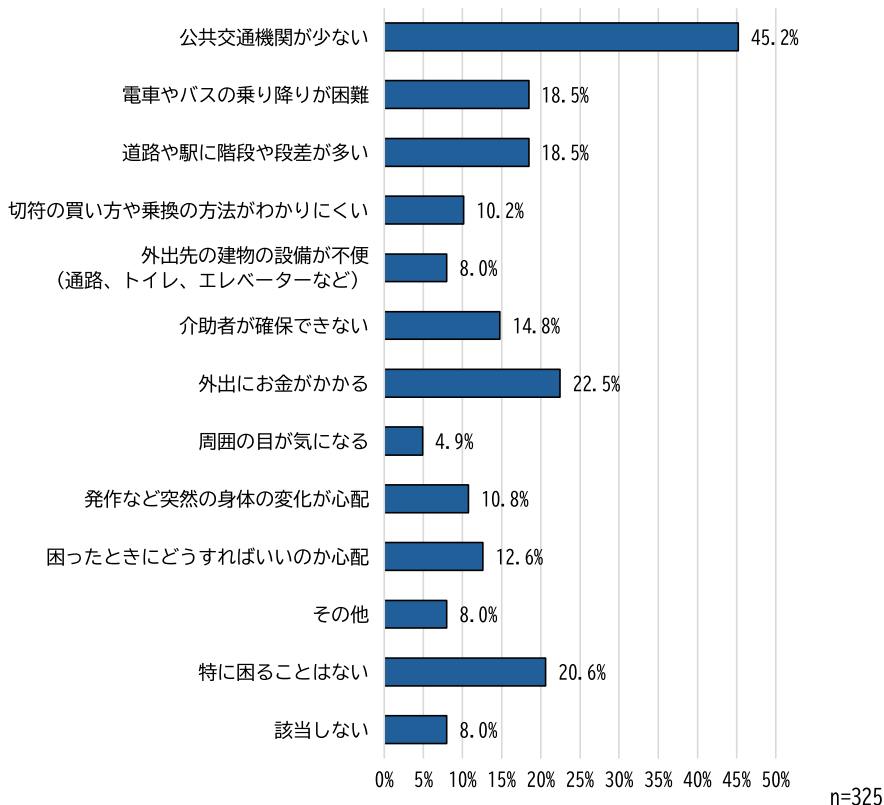
「買い物に行く」が63.5%でもっとも多く、次いで「医療機関の受診」が50.7%、「通勤・通学・通所」が37.8%の順になっています。



問 18 外出について困ることは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

「公共交通機関が少ない」が45.2%でもっとも多く、次いで「外出にお金がかかる」が22.5%、「電車やバスの乗り降りが困難」「道路や駅に階段や段差が多い」が共に18.5%の順になっています。

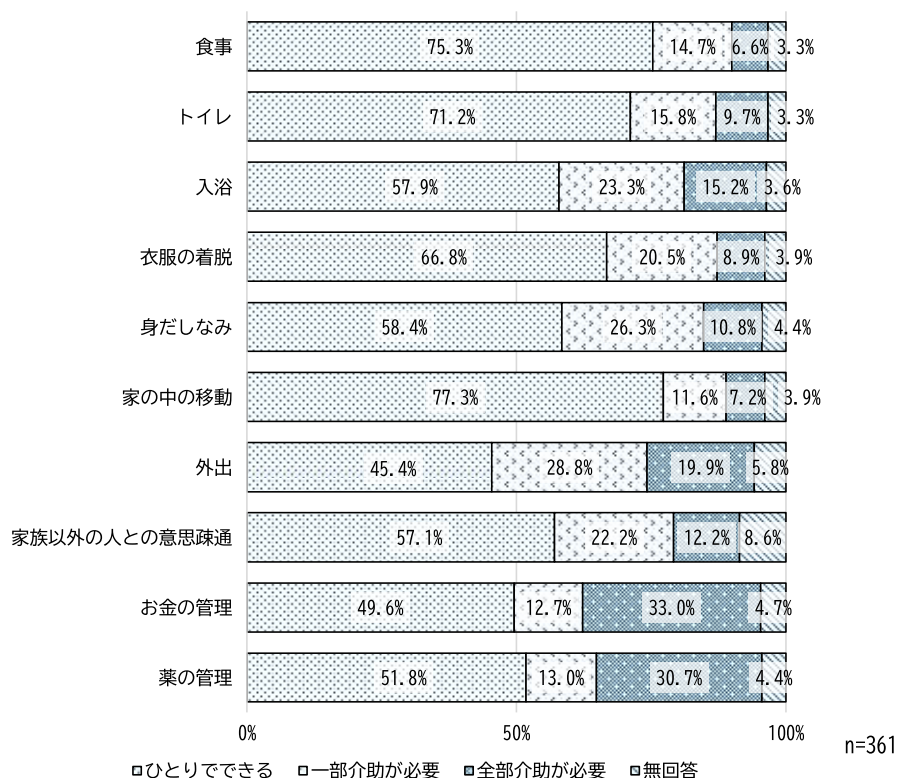
「特に困ることはない」は20.6%となっています。



問 19 日常生活の中で、次のことをどのようにしていますか。それぞれにお答えください。

ひとりでできることについて、「家の中の移動」が 77.3%でもっとも多く、次いで「食事」が 75.3%、「トイレ」が 71.2%の順になっています。

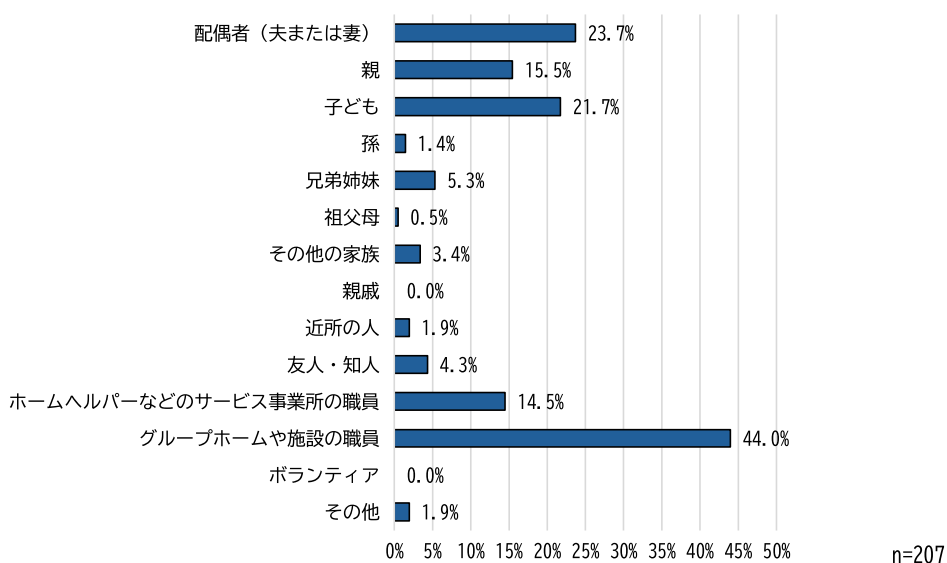
「外出」「お金の管理」「薬の管理」は一部または全部の介助を必要とする方が 40%を超えています。



問 19-1 問 19 の①～⑩に1つでも「一部介助が必要」、「全部介助が必要」を選んだ方のみお答えください。

あなたを介助してくれる人は主に誰ですか。(あてはまるものすべてに○)

「グループホームや施設の職員」が 44.0%でもっとも多く、次いで「配偶者(夫または妻)」が 23.7%、「子ども」が 21.7%の順になっています。



問 19-2 問 19-1 で1～8の選択肢を1つでも選んだ方(家族が主な介助者)のみお答えください。

あなたを介助してくれる家族で、特に中心となっている方の年齢、性別、健康状態、就労についてお答えください。

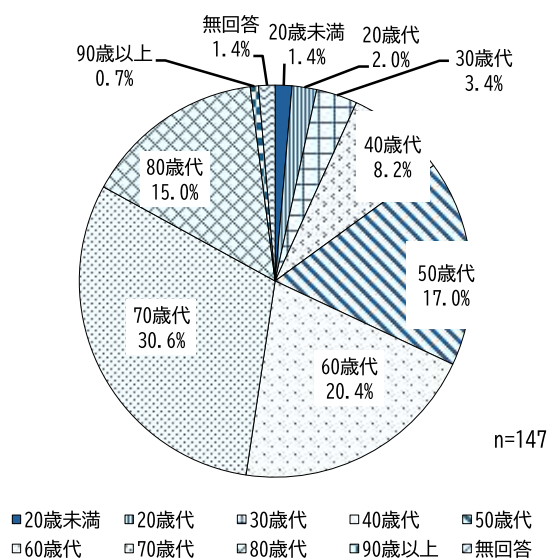
①年齢は「70 歳代」が 30.6%でもっとも多く、次いで「60 歳代」が 20.4%、「50 歳代」が 17.0%の順になっています。

②性別は「女性」が 68.0%、「男性」が 31.3%です。

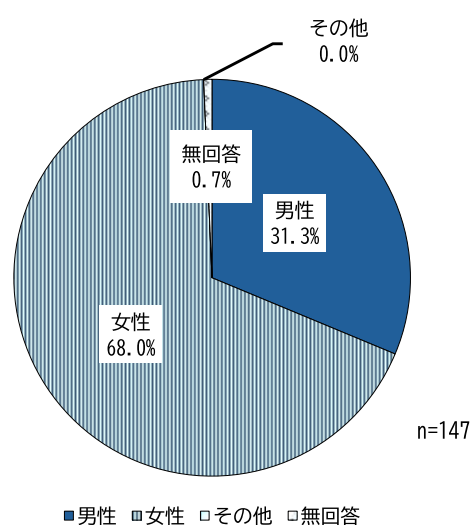
③健康状態は「よい」が 32.0%、「ふつう」が 51.0%で、「よくない」は 17.0%となっています。

④仕事は「はい(している)」が 38.1%、「いいえ(していない)」が 61.9%となっています。

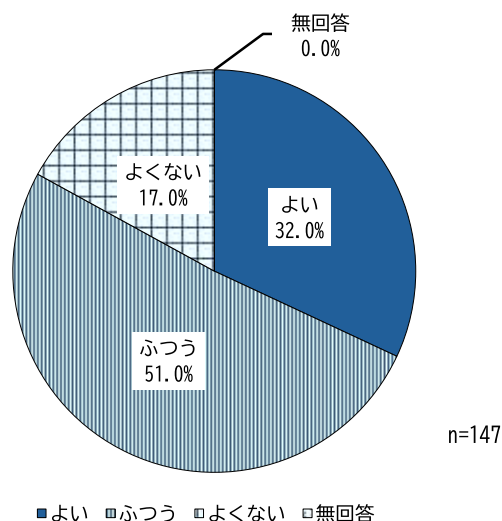
①年齢(令和8年4月1日時点) (○は1つのみ)



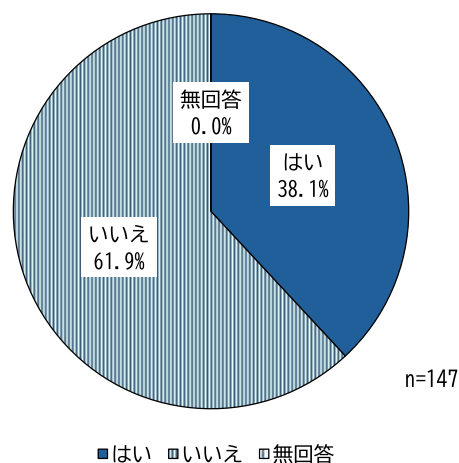
②性別 (○は1つのみ)



③健康状態 (○は1つのみ)

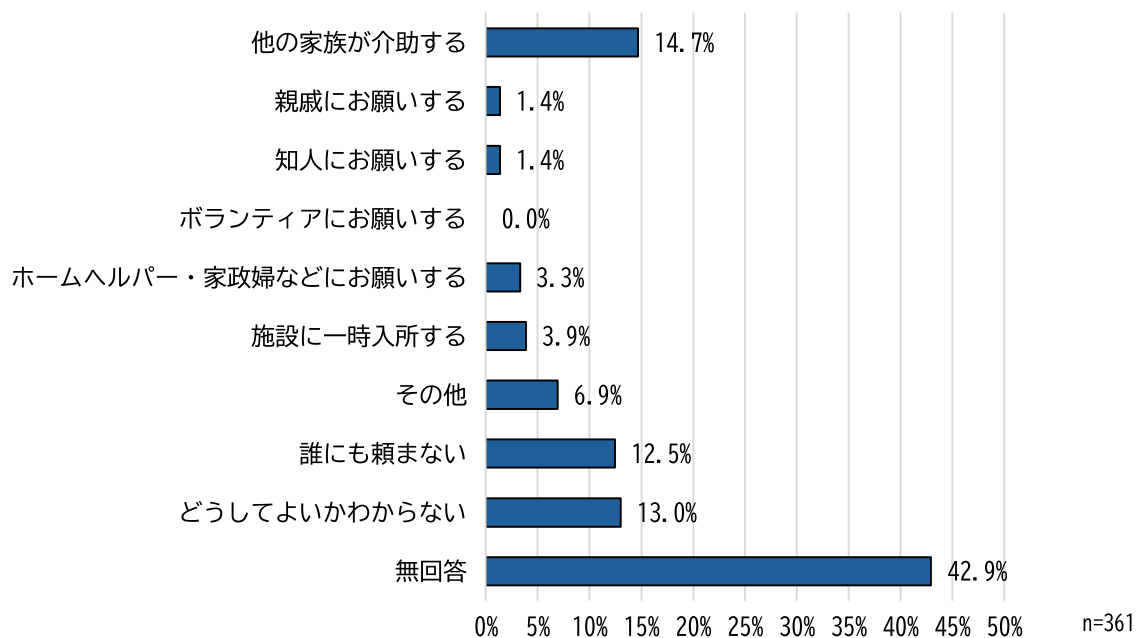


④お仕事はされていますか (○は1つのみ)



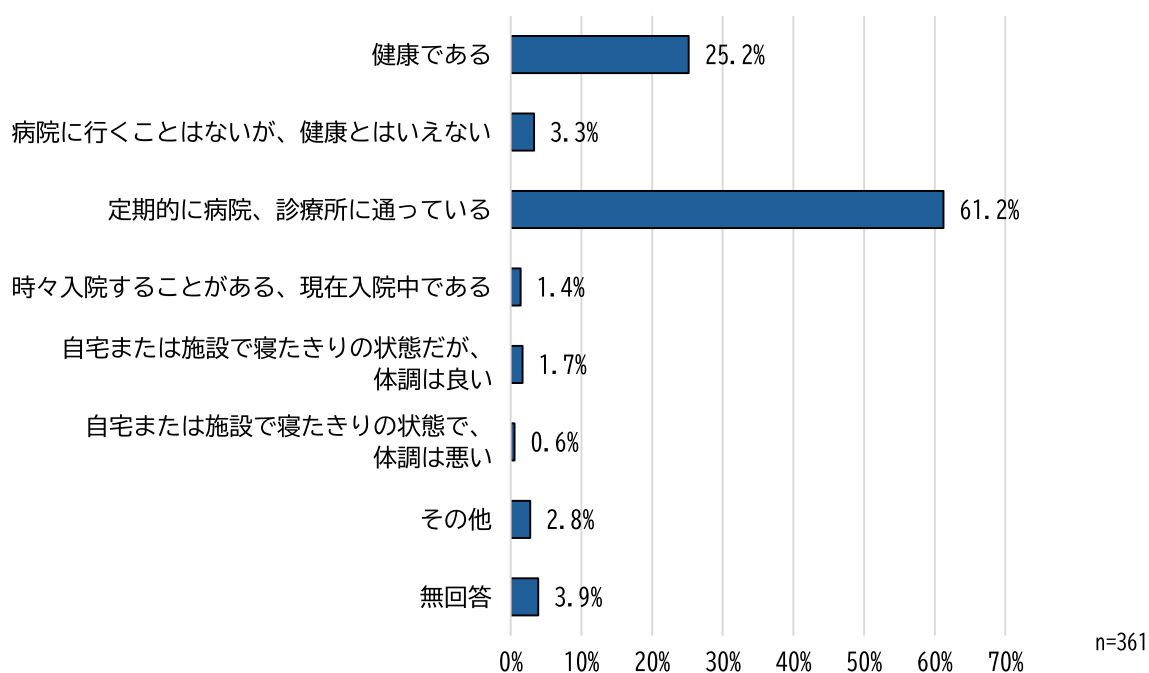
問 19-3 あなたを主に介助してくれる人が一時的に不在の場合、どうしていますか。(○は1つのみ)

「他の家族が介助する」が14.7%でもっとも多く、次いで「どうしてよいかわからない」が13.0%、「誰にも頼まない」が12.5%の順になっています。



問 20 あなたの現在の健康状態はいかがですか。(○は1つのみ)

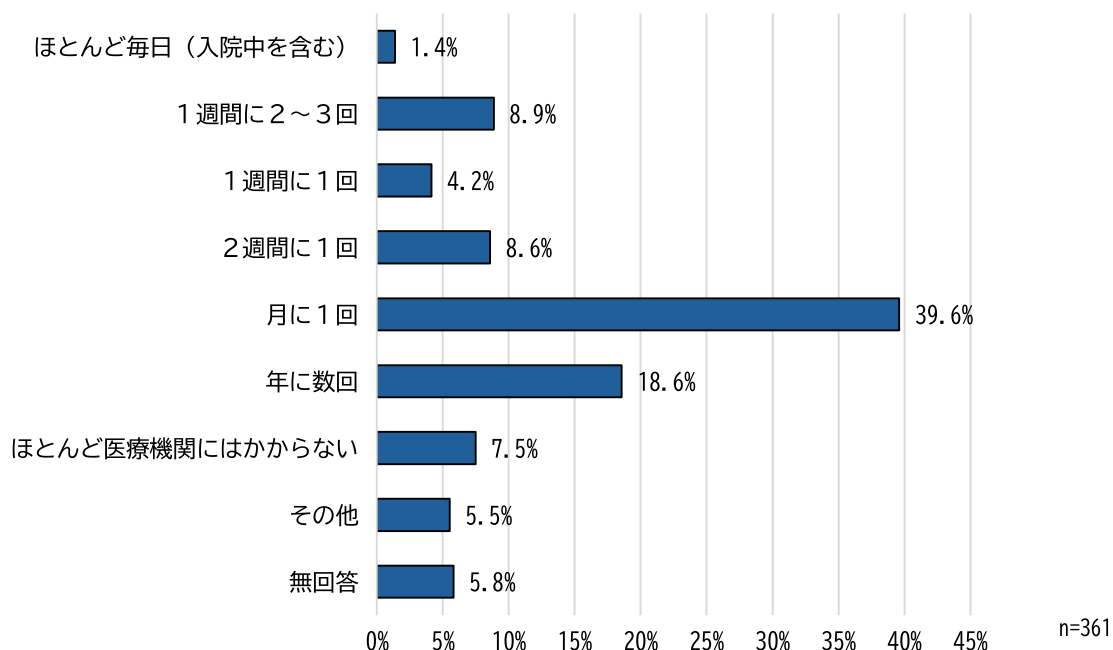
「定期的に病院、診療所に通っている」が61.2%でもっとも多く、次いで「健康である」が25.2%、「病院に行くことはないが、健康とはいえない」が3.3%の順になっています。



問 21 あなたは、どのくらい病院、診療所にかかっていますか。(○は1つのみ)

「月に1回」が39.6%でもっとも多く、次いで「年に数回」が18.6%、「1週間に2～3回」が8.9%の順になっています。

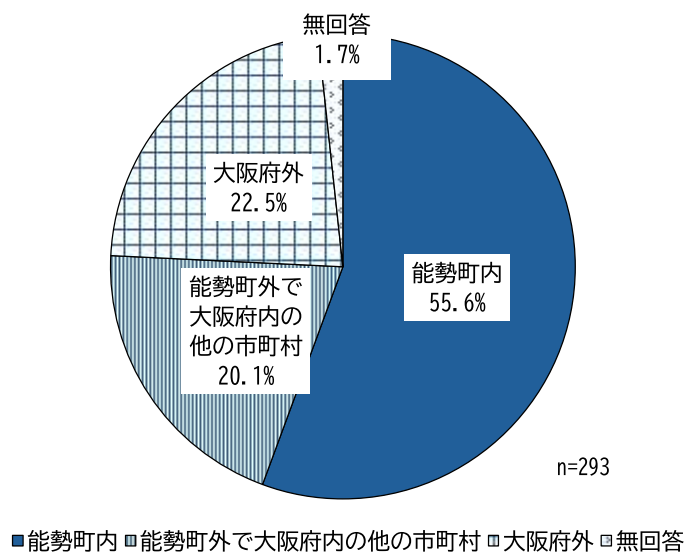
入院を含む、年に数回以上病院や診療所にかかっている人は81.3%となっています。



問 21-1 問 21 で「ほとんど毎日(入院中を含む)」、「1週間に2～3回」、「1週間に1回」、「2週間に1回」、「月に1回」、「年に数回」のいずれかを選択した方のみお答えください。

あなたが利用する主な病院、診療所はどこにありますか。(○は1つのみ)

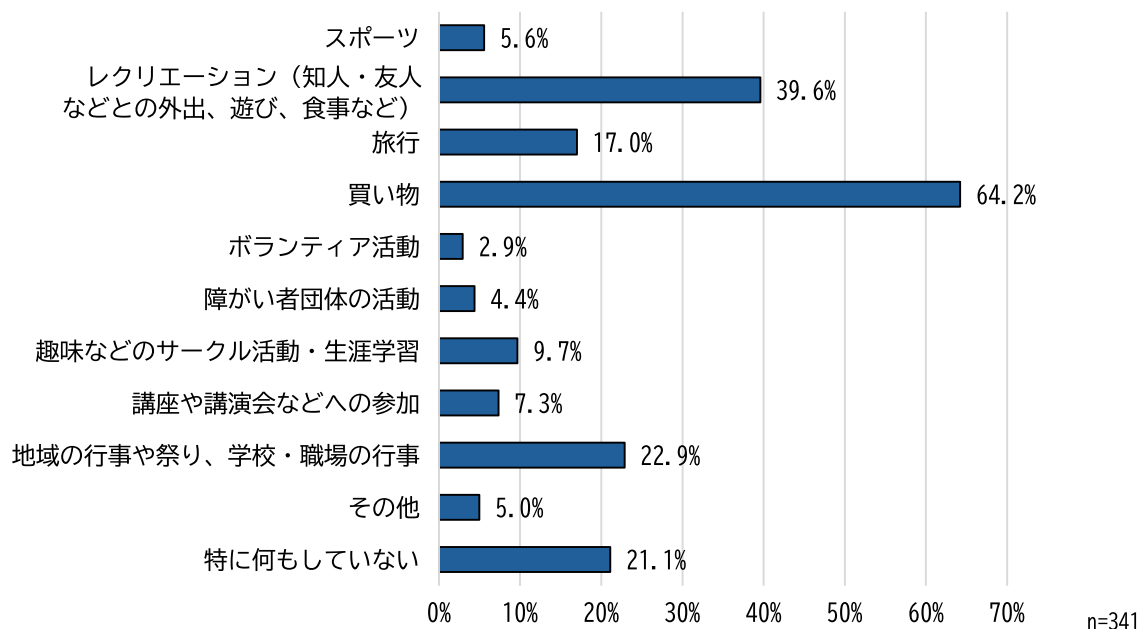
「能勢町内」が55.6%でもっとも多く、次いで「大阪府外」が22.5%、「能勢町以外で大阪府内の他の市町村」が20.1%の順になっています。



問 22 あなたは、最近(この1年ほどの間)にどのような活動をしましたか。(あてはまるものすべてに○)

「買い物」が 64.2%でもっとも多く、次いで「レクリエーション(知人・友人などとの外出、遊び、食事など)」が 39.6%、「地域の行事や祭り、学校・職場の行事」が 22.9%の順になっています。

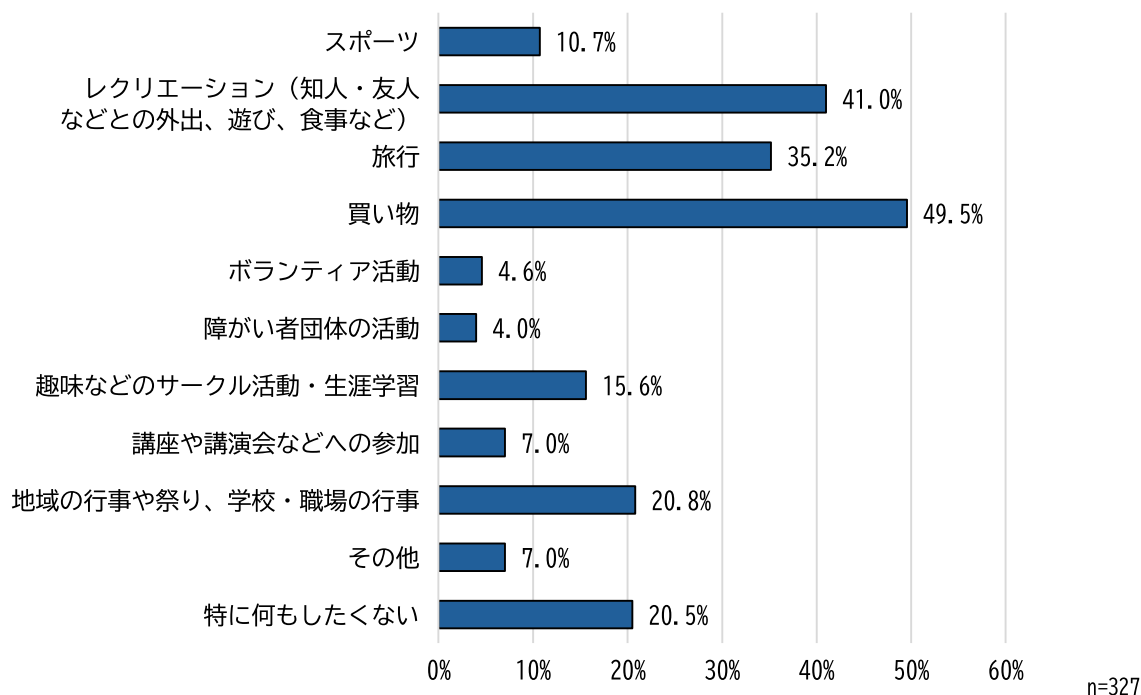
「特に何もしていない」は 21.1%となっています。



問 23 あなたは、今後どのような活動をしたいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

「買い物」が 49.5%でもっとも多く、次いで「レクリエーション(知人・友人などとの外出、遊び、食事など)」が 41.0%、「旅行」が 35.2%の順になっています。

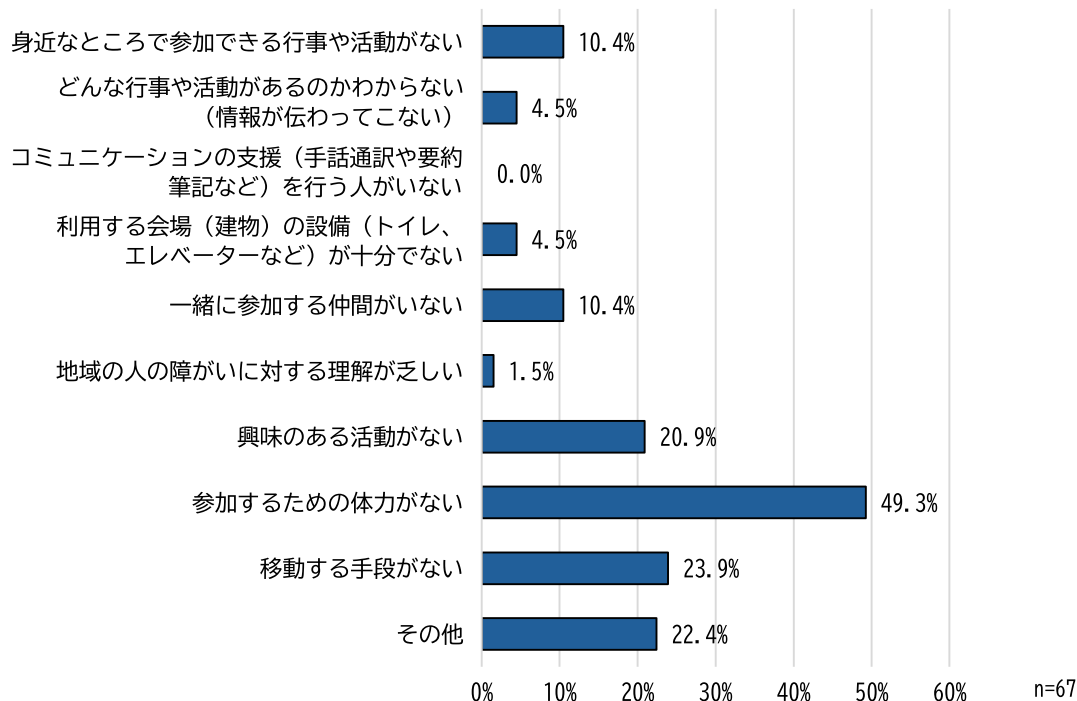
「特に何もしたくない」は 20.5%となっています。



問 23-1 問 23 で「特に何もしたくない」を選んだ方のみお答えください。

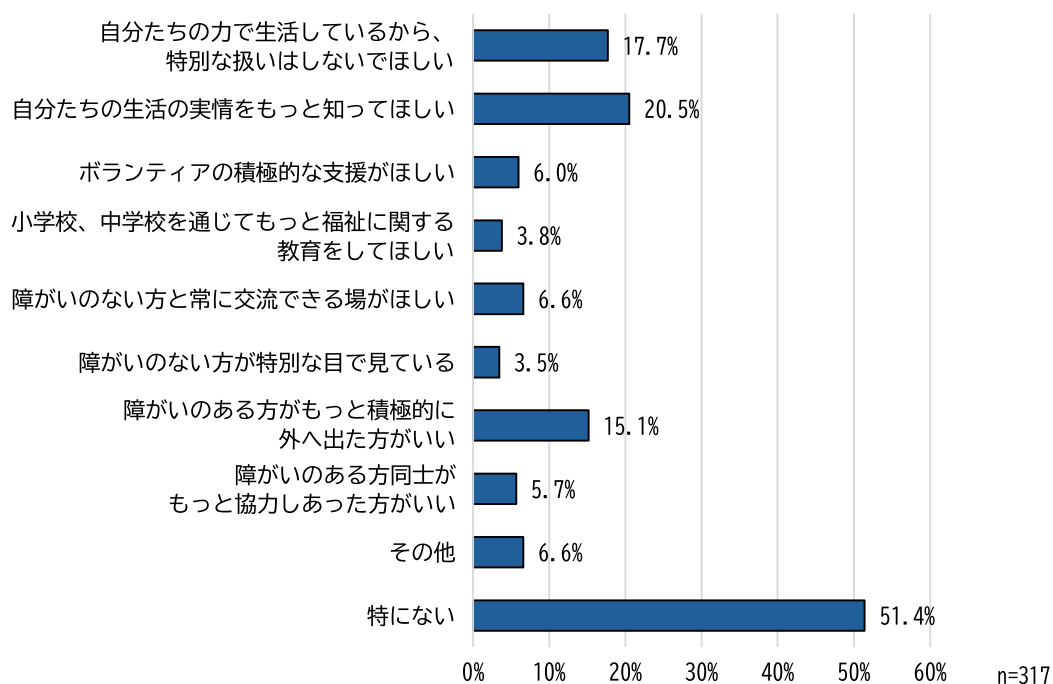
特に何もしたくない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

「参加するための体力がない」が 49.3%でもっとも多く、次いで「移動する手段がない」が 23.9%、「興味のある活動がない」が 20.9%の順になっています。



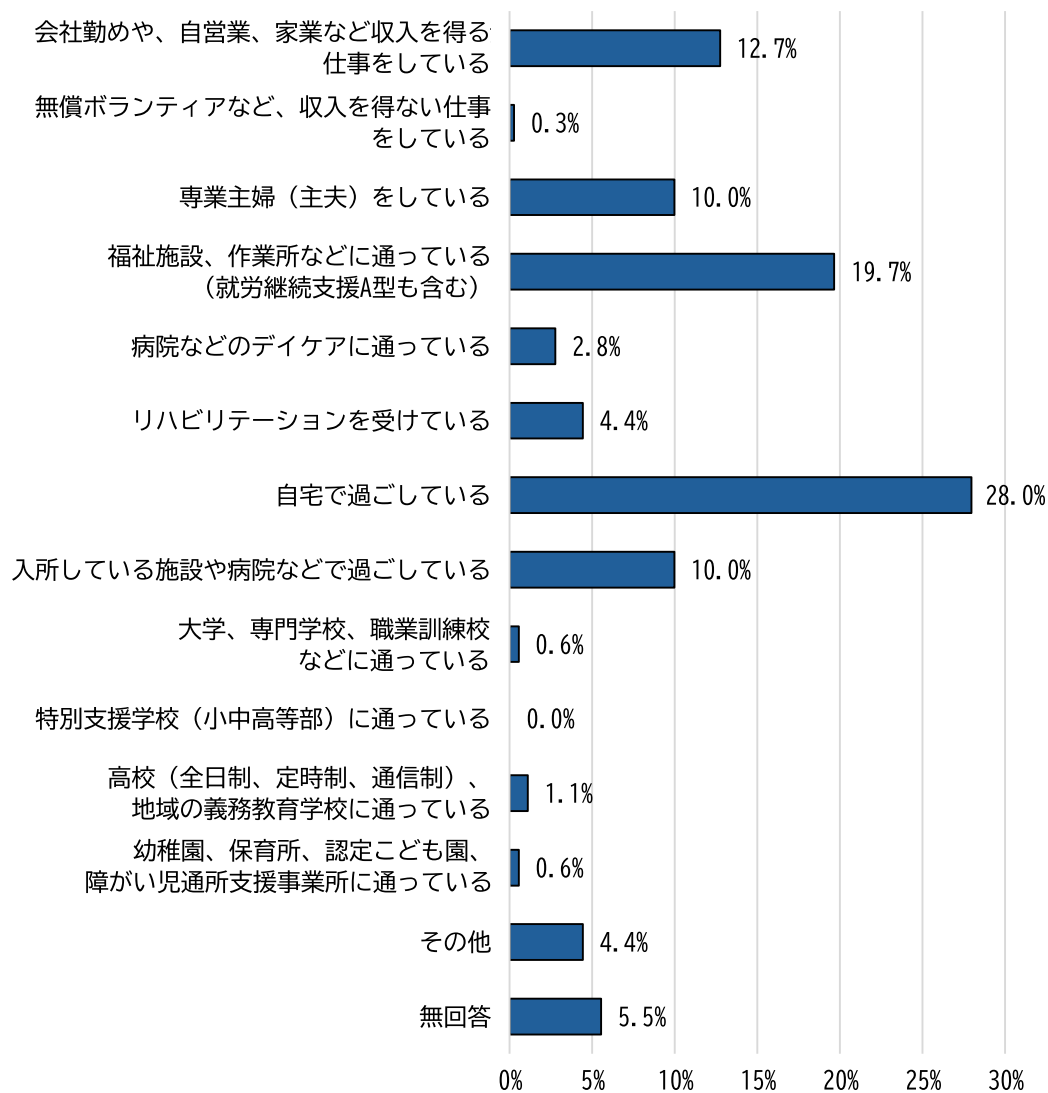
問 24 あなたが日頃生活していて感じることは、次のうちどれですか。（3つまで○）

「自分たちの生活の実情をもっと知ってほしい」が 20.5%ともっとも多く、次いで「自分たちの力で生活しているから、特別な扱いほしくないでほしい」が 17.7%、「障がいのある方がもっと積極的に外へ出た方がいい」が 15.1%の順になっています。「特にない」は 51.4%となっています。



問 25 あなたは、平日の日中を主にどのように過ごしていますか。(〇は1つのみ)

「自宅で過ごしている」が28.0%でもっとも多く、次いで「福祉施設、作業所などに通っている(就労継続支援 A 型も含む)」が19.7%、「会社勤めや、自営業、家業など収入を得る仕事をしている」が12.7%の順になっています。



n=361

「日常生活について」 結果からの考察

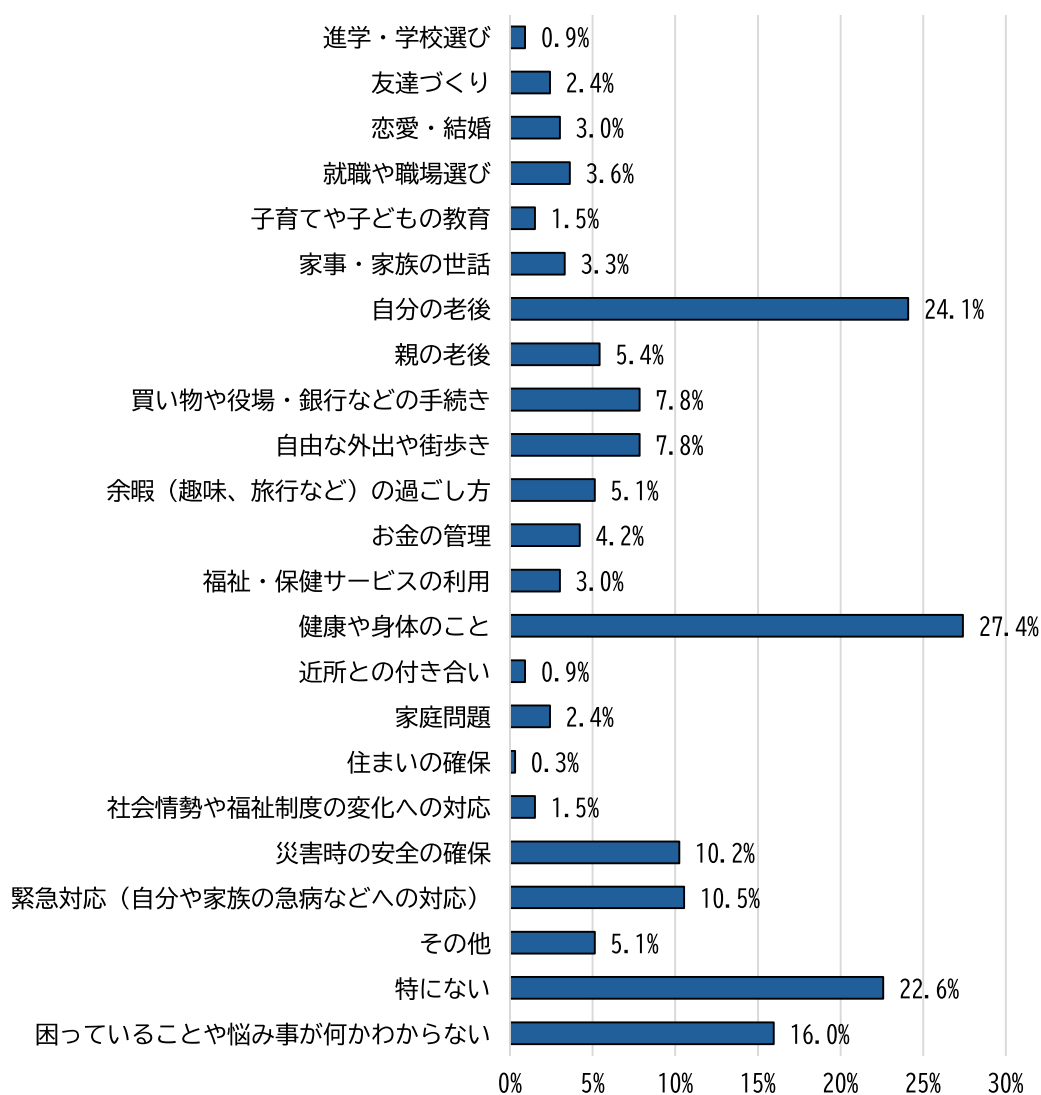
- 79.7%が外出している一方で、外出時の困りごとは「公共交通機関が少ない」が45.2%と突出しており、能勢町における移動手段の確保は障がい者の生活基盤に直結する最重要課題となっています。
- 日常生活において、「外出」「お金の管理」「薬の管理」では4割超が一部または全部の介助を必要としており、介助者の存在が生活の質を大きく左右することが分かります。
- 主な介助者は「グループホームや施設の職員」が44.0%、次いで「配偶者」「子ども」「親」と続きますが、介助者の年齢は「70歳代」が30.6%、「60歳代」が20.4%と高齢層が中心であり、いわゆる「老老介護」「親亡き後」の課題が顕在化しています。
- 主な介助者の一時的不在時の対応では、「どうしてよいかわからない」が13.0%、「誰にも頼まない」が12.5%となっており、緊急時のバックアップ体制が脆弱な層が一定数存在することから、地域での見守り・支え合いの仕組みづくりが求められます。
- 社会参加の状況では「特に何もしていない」が21.1%、今後も「特に何もしたくない」が20.5%と一定数おり、その理由は「体力がない」「移動手段がない」が中心となっています。健康面の支援と移動支援が、社会参加機会の拡大の前提条件となることがうかがえます。

相談について

問 26 現在、困っていることや悩みはありますか。（○は3つまで）

「健康や身体のこと」が 27.4%でもっとも多く、次いで「自分の老後」が 24.1%、「緊急対応（自分や家族の急病などへの対応）」が 10.5%の順になっています。

また、「特にない」が 22.6%、「困っていることや悩み事が何かわからない」が 16.0%となっています。

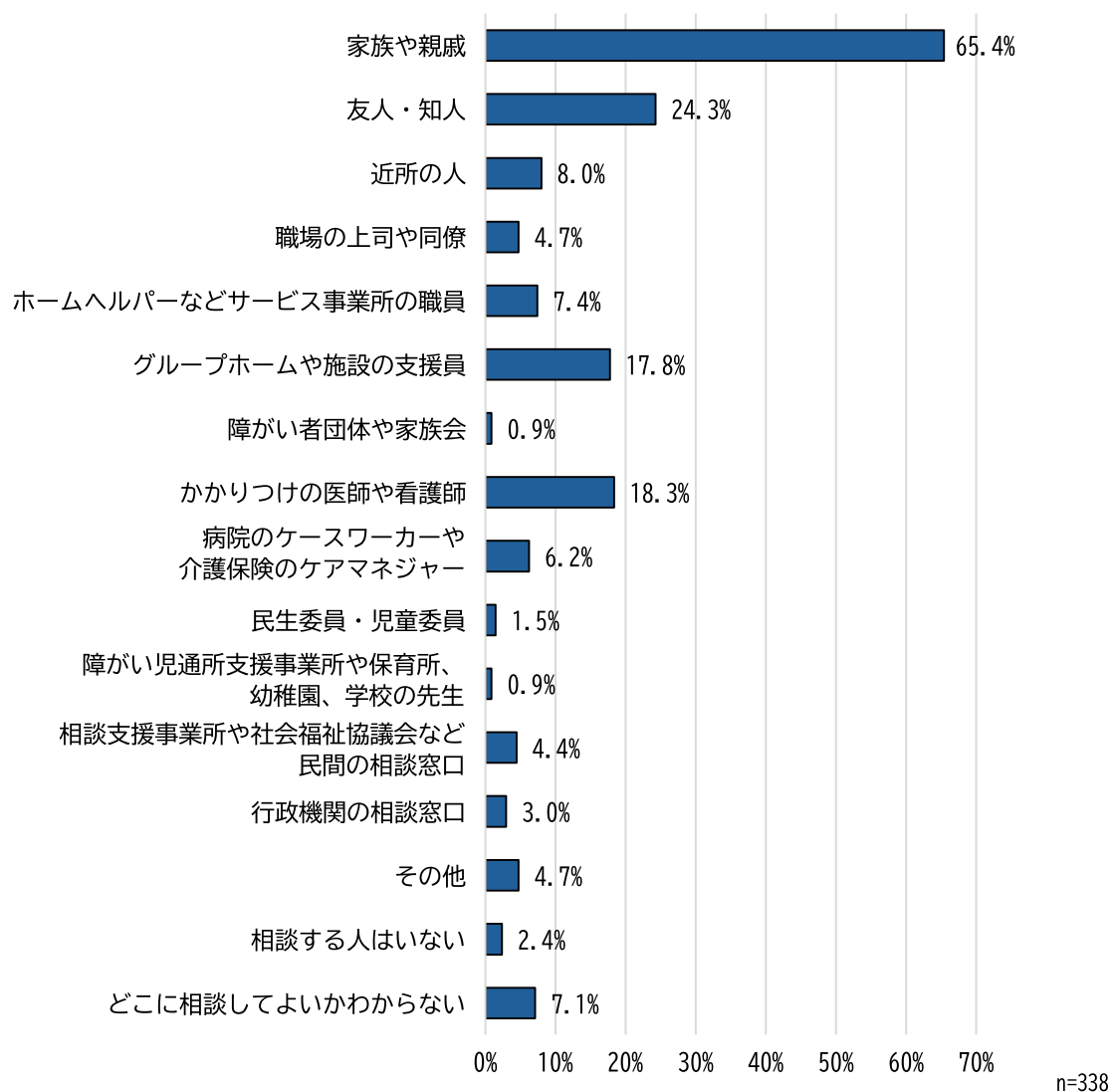


n=332

問 27 あなたは、普段、悩みや困ったことをどなたに相談しますか。（あてはまるものすべてに○）

「家族や親戚」が65.4%でもっとも多く、次いで「友人・知人」が24.3%、「かかりつけの医師や看護師」が18.3%の順になっています。

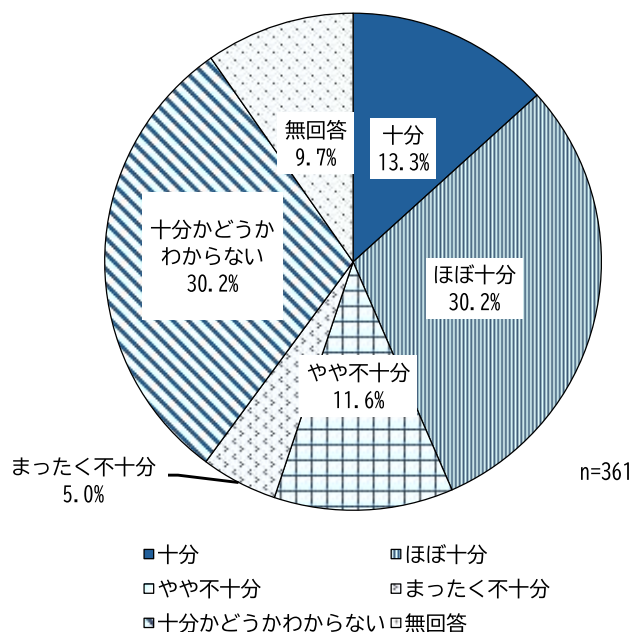
また、「相談する人はいない」が2.4%、「どこに相談してよいかわからない」が7.1%となっています。



問 28 困ったときの相談体制について、現在の状態はあなたにとって十分ですか。(○は1つのみ)

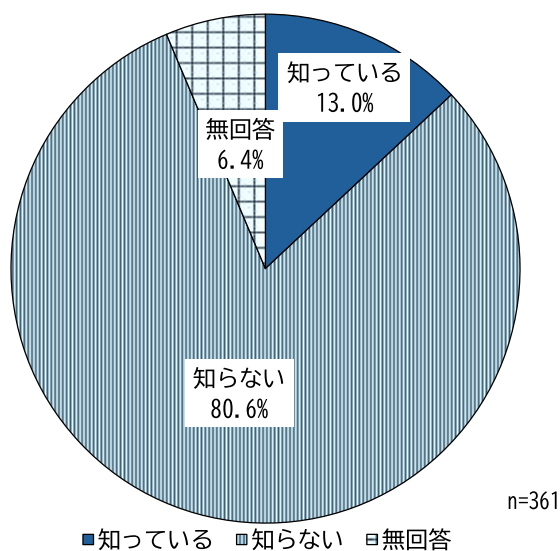
「ほぼ十分」が 30.2%でもっとも多く、次いで「十分」(13.3%)、「やや不十分」(11.6%)の順となっています。また、「十分かどうか分からない」が 30.2%となっています。

【十分(「十分」または「ほぼ十分」)と回答した割合が 43.5%、【不十分(「やや不十分」または「まったく不十分」)】と回答した割合は 16.6%となっています。



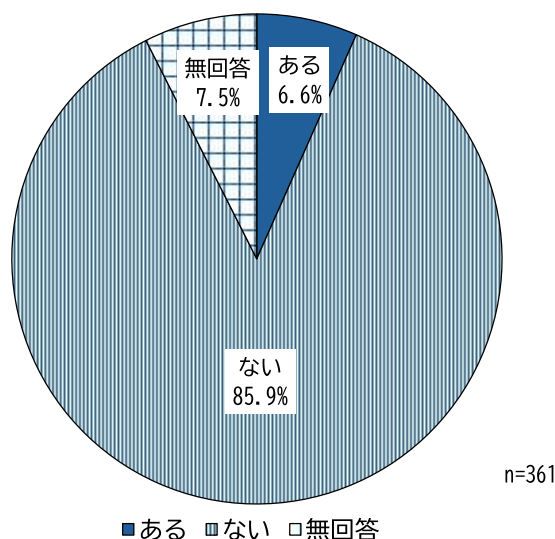
問 29 能勢町では、平成 29 年度から能勢町保健福祉センター内に基幹相談支援センターを設置し、専門の相談員が対応しています。あなたは、基幹相談支援センターを知っていますか。(○は1つのみ)

「知っている」は 13.0%で、「知らない」は 80.6%となっています。



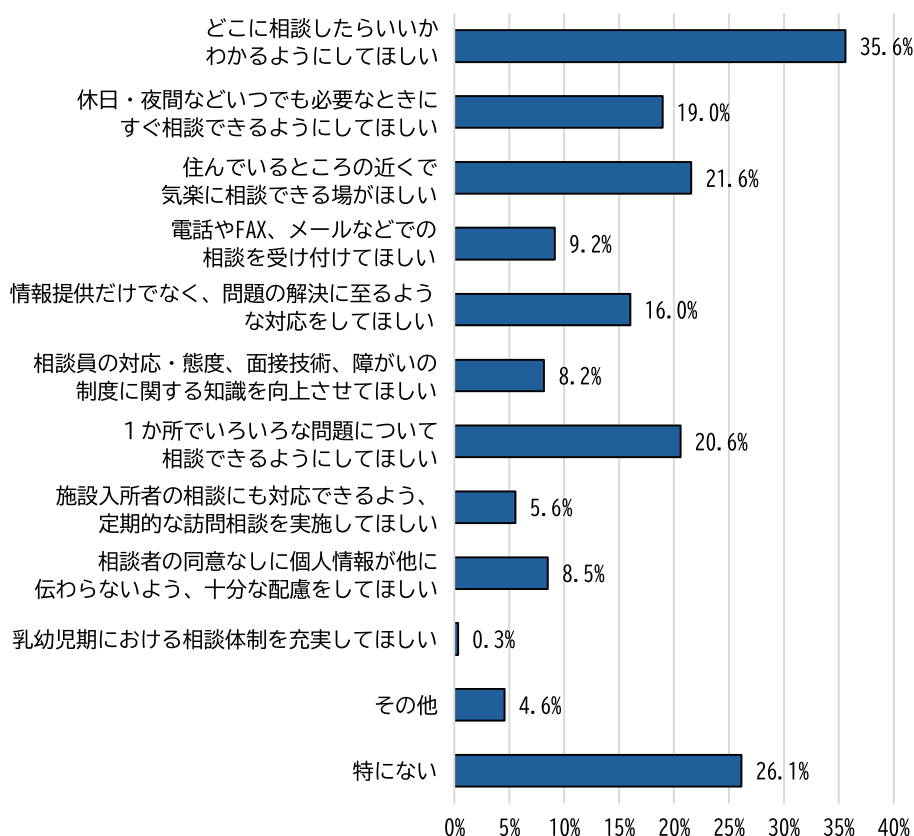
問 30 あなたは、基幹相談支援センターで相談したことがありますか。(○は1つのみ)

「ある」は 6.6%で、「ない」は 85.9%となっています。



問 31 今後、福祉や生活に関する相談体制として、どのようなことを希望しますか。(○は3つまで)

「どこに相談したらいいかわかるようにしてほしい」が 35.6%でもっとも多く、次いで「住んでいるところの近くで気軽に相談できる場が欲しい」が 21.6%、「1 か所でいろいろな問題について相談できるようにしてほしい」が 20.6%の順になっています。



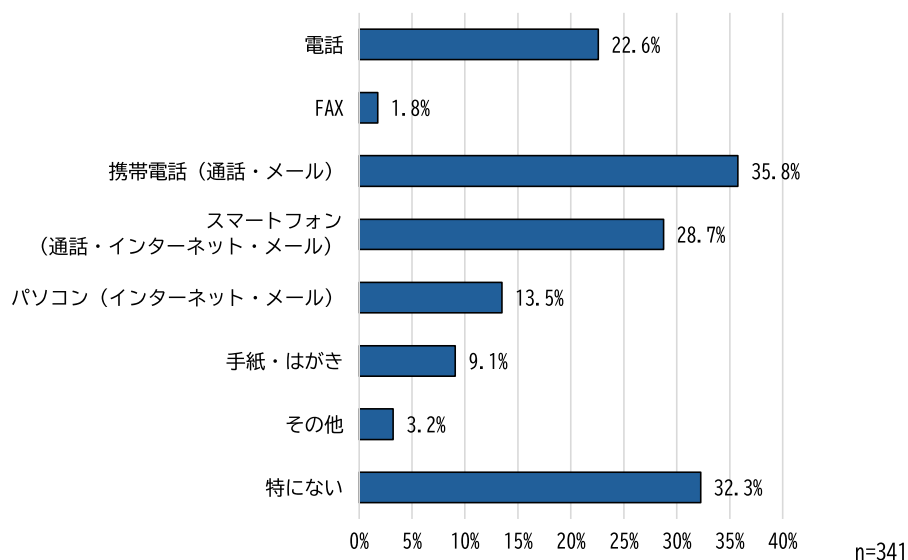
「相談について」 結果からの考察

- 現在の困りごとは「健康や身体のこと」(27.4%)や「自分の老後」(24.1%)が上位を占めており、健康面と将来への不安が大きな課題となっています。一方で「特にない」(22.6%)や「困っていることが何かわからない」(16.0%)の回答も多く、潜在的な課題を顕在化させる働きかけが求められます。
- 相談先は「家族や親戚」が65.4%と突出して多く、家族内で相談する傾向が高いです。これは家族不在時や家族自身の高齢化に伴い、相談支援の空白を生むリスクがあるため、公的な相談窓口の機能強化が重要であると考えられます。
- 一方、基幹相談支援センターの認知度は、「知っている」が13.0%にとどまり、実際の利用経験も6.6%と低水準となっています。
- 相談体制への希望では「どこに相談したらいいかわかるようにしてほしい」が35.6%と最も多く、相談窓口そのものの存在や役割の周知が不十分であることが考えられます。
- 今後は、基幹相談支援センターや相談窓口の周知を行い、誰もが相談先を把握し、必要なときに利用できるようにすることが求められます。

情報収集について

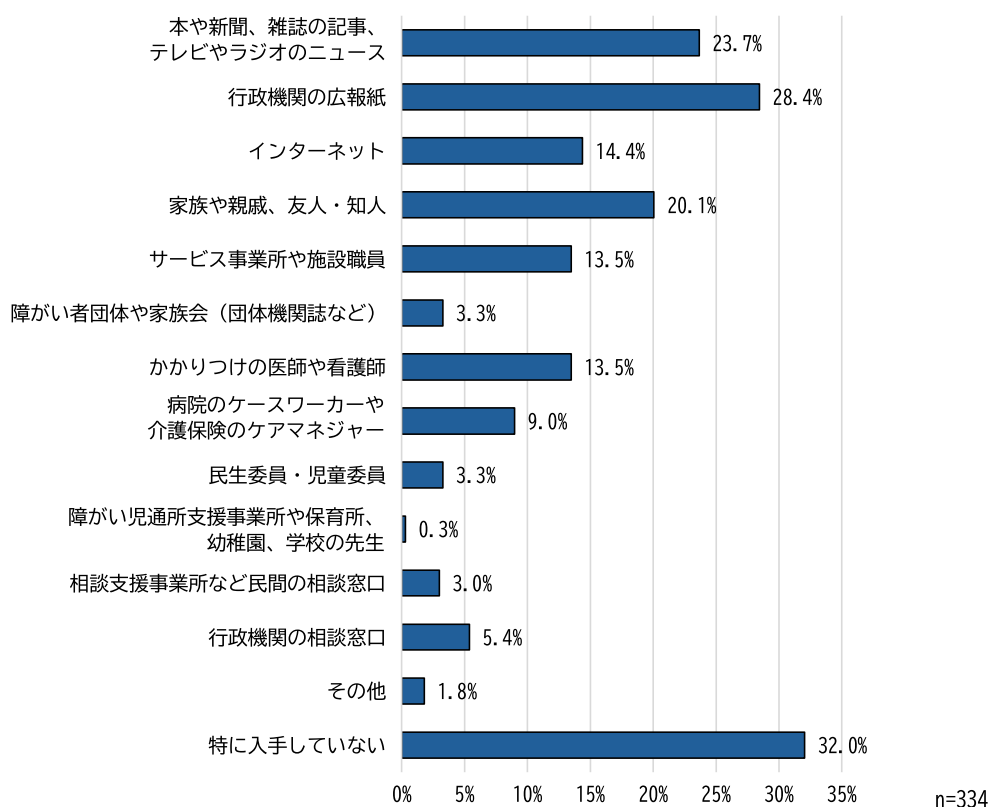
問 32 あなたがよく利用する情報通信手段は何ですか。(〇はいくつでも)

「携帯電話(通話・メール)」が 35.8%でもっとも多く、次いで「スマートフォン(通話・インターネット・メール)」が 28.7%、「電話」が 22.6%の順になっています。また、「特にない」が 32.3%となっています。



問 33 あなたは、障がいのことや福祉サービスなどに関する情報を、どこから知ることが多いですか。(あてはまるものすべてに〇)

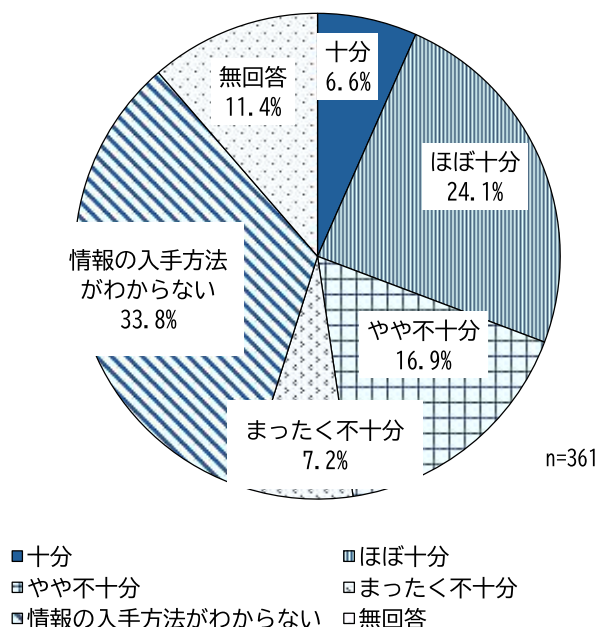
「行政機関の広報誌」が 28.4%でもっとも多く、次いで「本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース」が 23.7%、「家族や親戚、友人・知人」が 20.1%の順になっています。「特に入手していない」が 32.0%となっています。



問 34 現在、福祉に関する情報の入手方法は、あなたにとって十分ですか。(○は1つのみ)

「情報の入手方法がわからない」が 33.8%と最も多く、次いで「ほぼ十分」が 24.1%、「やや不十分」が 16.9%の順になっています。

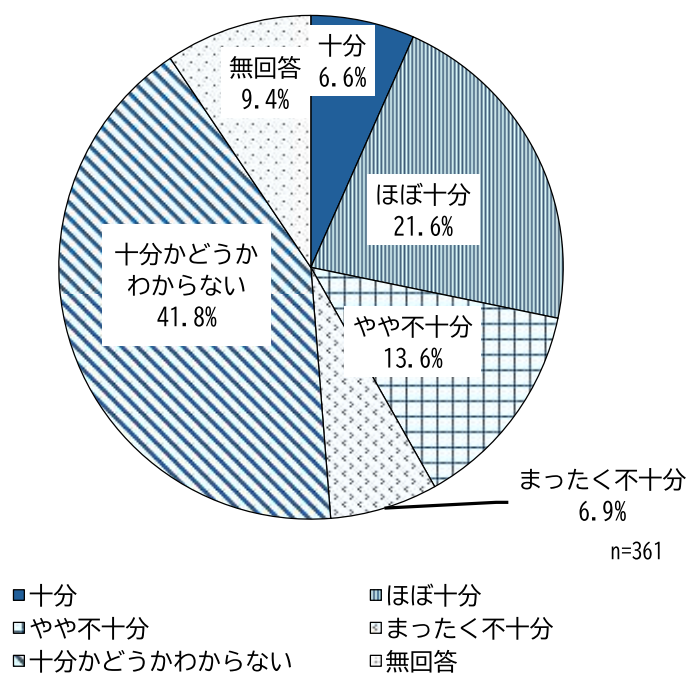
【十分(「十分」または「ほぼ十分」)】と回答した割合が 30.7%、【不十分(「やや不十分」または「まったく不十分」)】と回答した割合が 24.1%となっています。



問 35 現在、福祉に関する情報の内容は、あなたにとって十分ですか。(○は1つのみ)

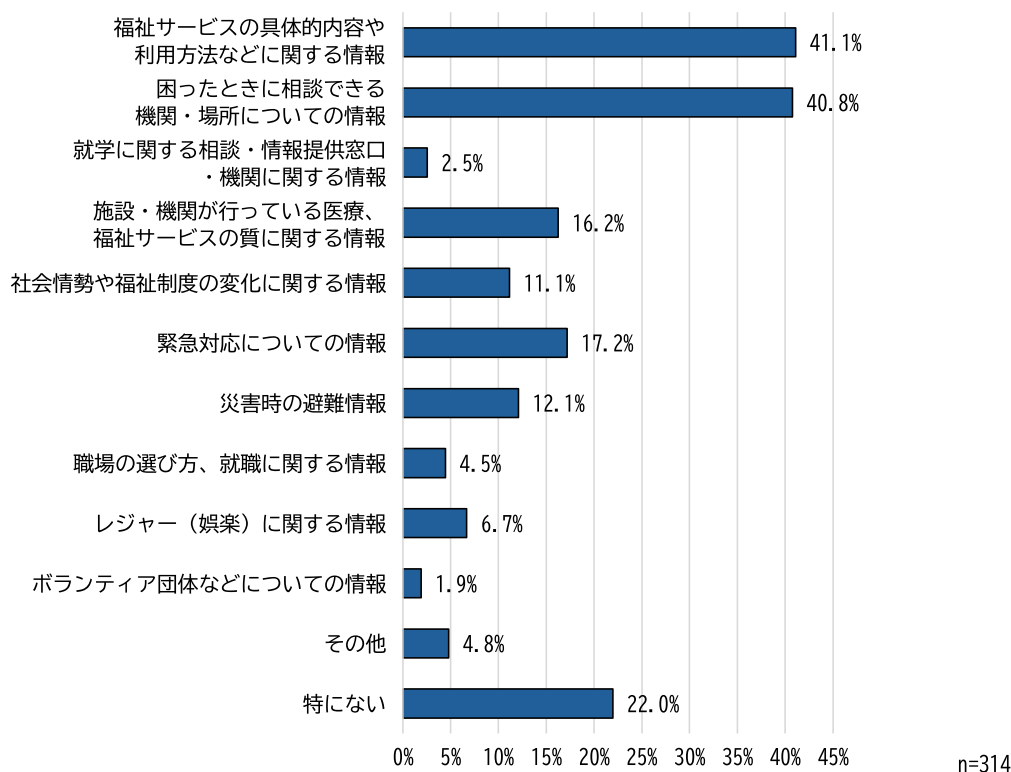
「十分かどうかわからない」が 41.8%で最も多く、次いで「ほぼ十分」が 21.6%、「やや不十分」が 13.6%の順になっています。

【十分(「十分」または「ほぼ十分」)】と回答した割合が 28.2%、【不十分(「やや不十分」または「まったく不十分」)】と回答した割合が 20.5%となっています。



問 36 あなたにとって、今後充実してほしい情報は何か。(〇は3つまで)

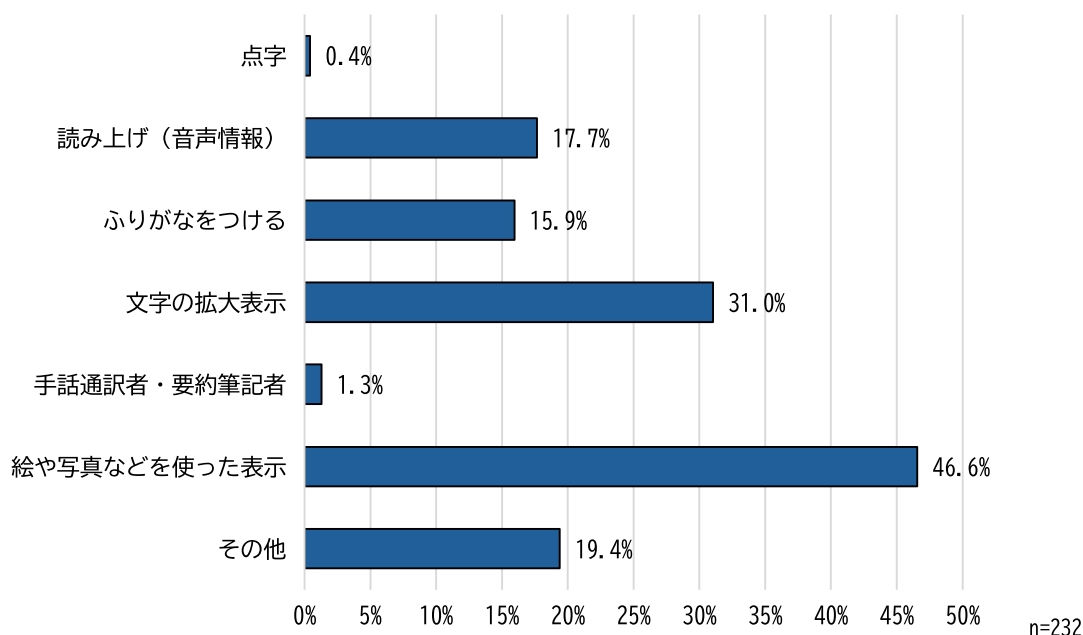
「福祉サービスの具体的な内容や利用方法などに関する情報」が 41.1%でもっとも多く、次いで「困った時に相談ができる機関・場所についての情報」が 40.8%、「緊急対応についての情報」が 17.2%の順になっています。「特にない」が 22.0%となっています。



問 37 あなたが今後、情報を理解しやすくするためには、どのような方法や支援が必要ですか。

(あてはまるものすべてに〇)

「絵や写真などを使った表示」が 46.6%でもっとも多く、次いで「文字の拡大表示」が 31.0%、「読み上げ（音声情報）」が 17.7%の順になっています。



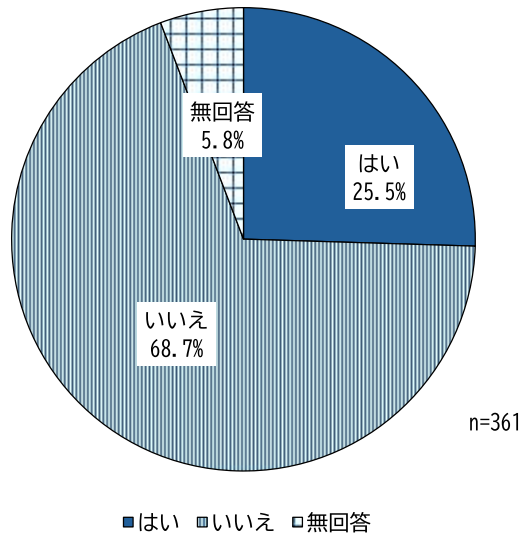
「情報収集について」 結果からの考察

- 情報通信手段は「携帯電話」が 35.8%、「スマートフォン」が 28.7%と多い一方で、「特にない」が 32.3%を占めており、デジタル機器に親しんでいない層が一定数存在することがうかがえます。高齢の障がい者が多い本町の特性を踏まえると、紙媒体と電子媒体を併用した情報発信の継続が不可欠です。
- 福祉に関する情報の入手元は「行政機関の広報誌」が 28.4%でもっとも多いものの、「特に入手していない」が 32.0%となっており、情報を必要とする人が適切に情報を入手できるように周知方法を工夫していく必要があります。
- 情報の入手方法について「情報の入手方法がわからない」が 33.8%で最多となっており、不十分と感じている人も一定数みられます。情報そのものよりも「どこから入手すればよいか」の周知が大きな課題となるとともに、情報を必要とする人が入手しやすい形で発信していくことが求められています。
- 今後充実してほしい情報としては「福祉サービスの具体的内容や利用方法」が 41.1%、「困った時に相談ができる機関・場所」が 40.8%と、具体的かつ実践的な情報への要望が突出しています。
- 情報を理解しやすくするための支援として「絵や写真などを使った表示」が 46.6%、「文字の拡大表示」が 31.0%と、障がい特性に応じた多様な伝達手段の整備が求められています。広報誌・ホームページに加え、ピクトグラム・ルビ付き・音声読み上げなどユニバーサルデザインに配慮した情報発信を強化することが重要と考えられます。

就労について

問 38 あなたは、現在、仕事をしていますか(福祉施設・作業所などでの就労も含む)。(○は1つのみ)

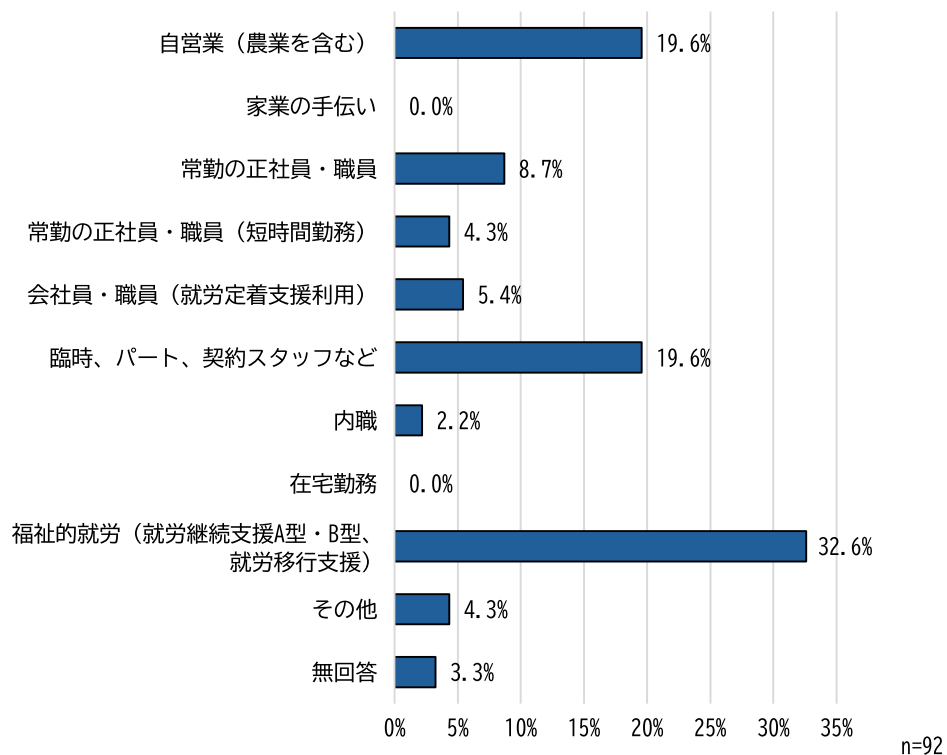
「はい」が 25.5%、「いいえ」が 68.7%となっています。



問 38-1 問 38 で「はい」を選んだ方のみお答えください。

仕事は次のどれですか。(○は1つのみ)

「福祉的就労(就労継続支援A型・B型、就労移行支援)」が32.6%でもっとも多く、次いで「自営業(農家を含む)」「臨時、パート、契約スタッフなど」が共に 19.6%、「常勤の正社員・職員」が 8.7%の順になっています。

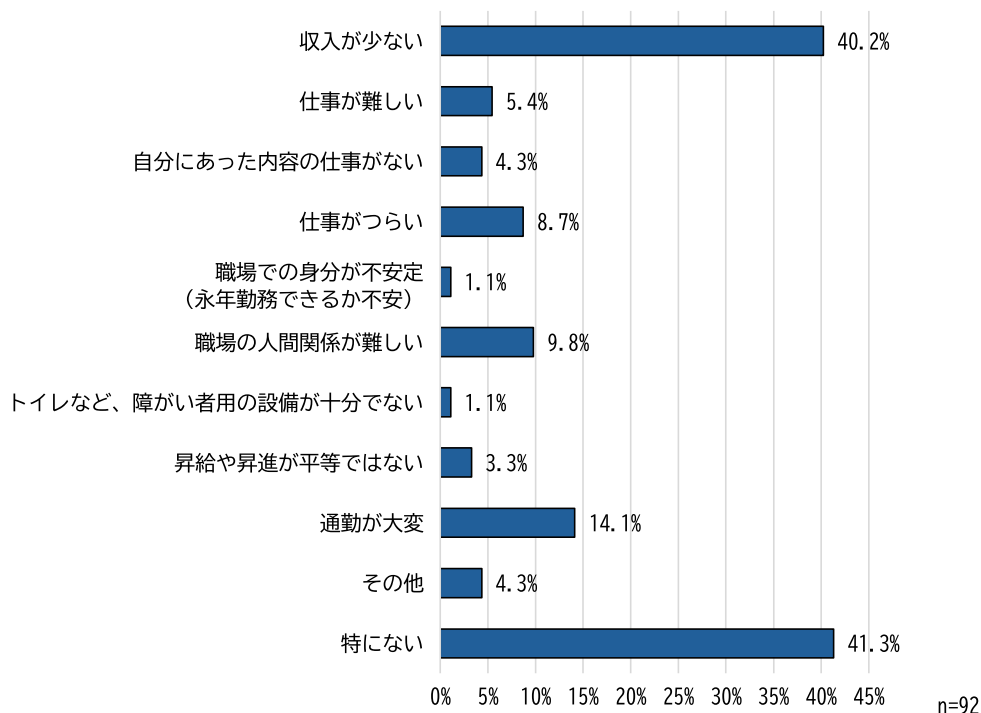


問 38-2 問 38 で「はい」を選んだ方のみお答えください。

仕事をする上で、何か困っていることがありますか。(あてはまるものすべてに○)

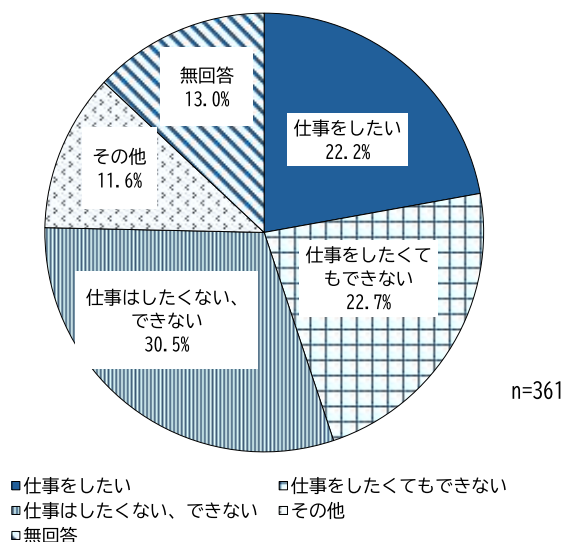
「収入が少ない」が 40.2%でもっとも多く、次いで「通勤が大変」で 14.1%、「職場の人間関係が難しい」が 9.8%の順になっています。

「特にない」が 41.3%となっています。



問 39 あなたは今後、収入を得る仕事をしたいと思いますか。(○は1つのみ)

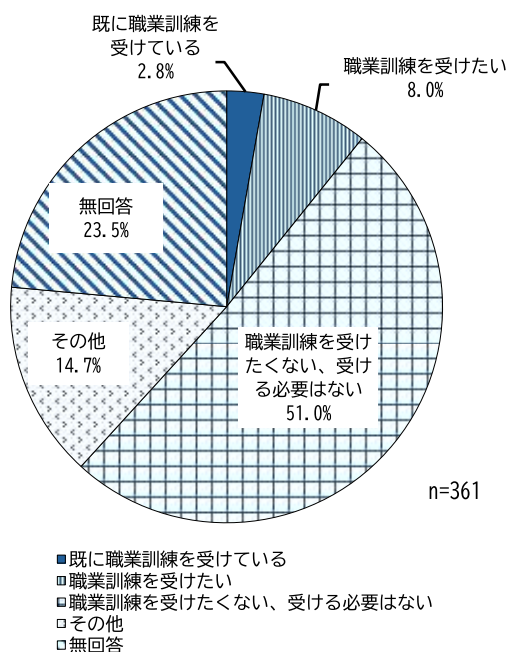
「仕事はしたくない、できない」が 30.5%でもっとも多く、次いで「仕事をしたくてもできない」が 22.7%、「仕事をしたい」が 22.2%の順になっています。



問 40 収入を得る仕事に就くために、職業訓練などを受けたいと思いますか。(○は1つのみ)

「職業訓練を受けたくない、受ける必要はない」が51.0%でもっとも多くなっています。

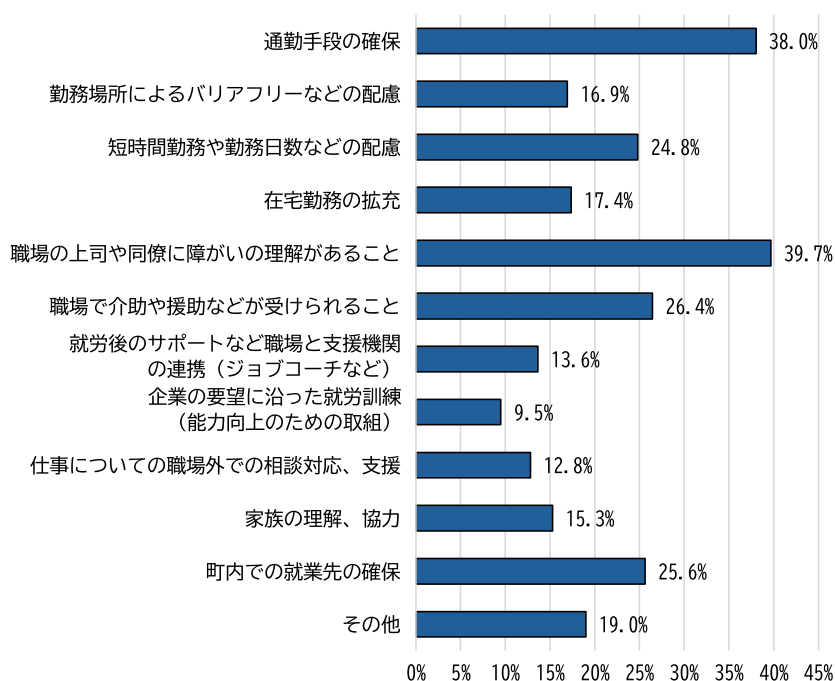
「既に職業訓練を受けている」2.8%と「職業訓練を受けたい」8.0%を合わせた『職業訓練を受けたいの合計』は10.8%となっています。



問 41 あなたは、障がい者の就労支援として、どのようなことが必要だと思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

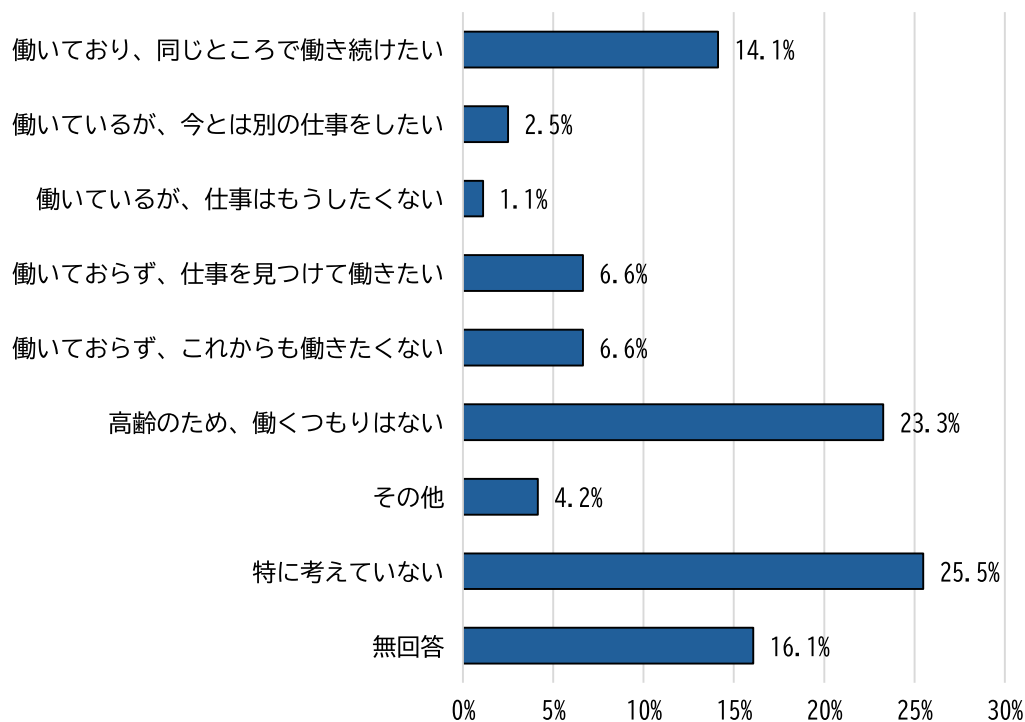
「職場の上司や同僚に障がいの理解があること」が39.7%でもっとも多く、次いで「通勤手段の確保」が38.0%、「職場で介助や援助などが受けられること」が26.4%の順になっています。



問 42 あなたは、今後の仕事についてどのように考えていますか。（○は1つのみ）

「高齢のため、働くつもりはない」が 23.3%でもっとも多く、次いで「働いており、同じところで働き続けたい」が 14.1%、「働いておらず、仕事を見つけて働きたい」「働いておらず、これからも働きたくない」が共に 6.6%の順になっています。

「特に考えていない」が 25.5%となっています。



n=361

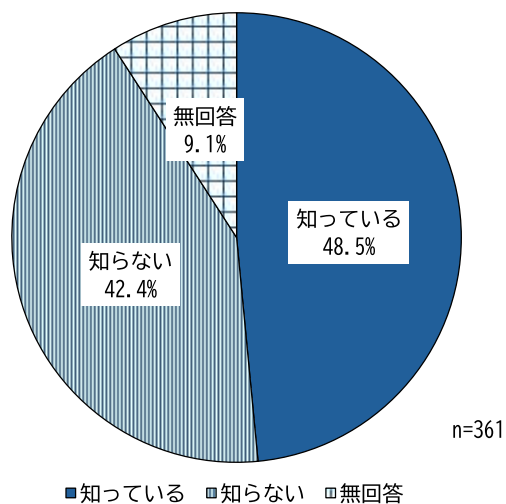
「就労について」 結果からの考察

- 現在仕事をしている方は 25.5%、仕事をしていない方は 68.7%の状況です。
- 就労形態としては、「福祉的就労（就労継続支援 A 型・B 型、就労移行支援）」が 32.6%でもっとも多い一方、「常勤の正社員・職員」は 8.7%と少なく、就労継続支援事業所に対する支援や研修の充実等を通じ、サービスの質の向上を図るとともに、利用者の特性に応じた多様な就労機会の確保に向けた取組が求められます。
- 仕事をする上で困っていることでは、「収入が少ない」が 40.2%ともっとも多く、次いで「通勤が大変」が 14.1%となっており、賃金水準の向上と通勤環境の整備が課題となっています。
- 今後の就労移行では「仕事をしたい」が 22.2%である一方、「仕事をしなくてもできない」が 22.7%、「仕事はしたくない、できない」が 30.5%であり、就労を希望していてもできない層への支援強化が必要です。
- 必要な就労支援としては、「職場の上司や同僚に障がいの理解があること」が 39.7%、「通勤手段の確保」が 38.0%、「職場で介助や援助などが受けられること」が 26.4%であり、職場における障がいの理解の促進、通勤手段の確保、職場内サポート体制の整備が課題です。

火事や地震、豪雨(台風・暴風)などの災害時のことについて

問 43 あなたは、災害などの緊急時の場合、避難場所や避難所を知っていますか。(○は1つのみ)

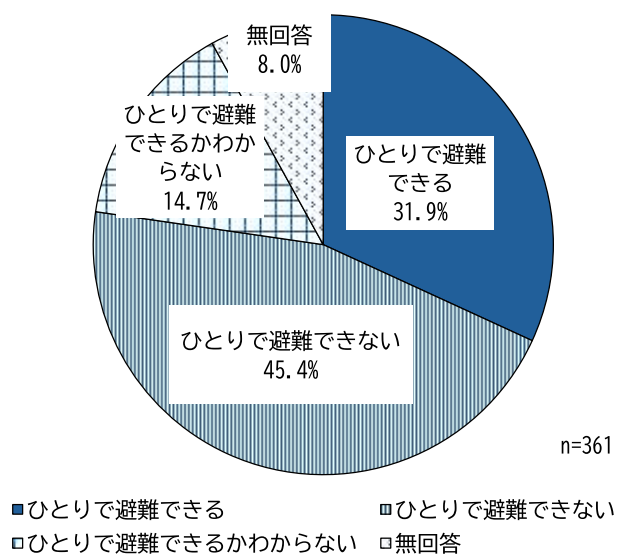
「知っている」が48.5%、「知らない」が42.4%となっています。



問 44 あなたは、災害などの緊急時の場合、ひとりで避難できますか。(○は1つのみ)

「ひとりで避難できる」が31.9%となっています。

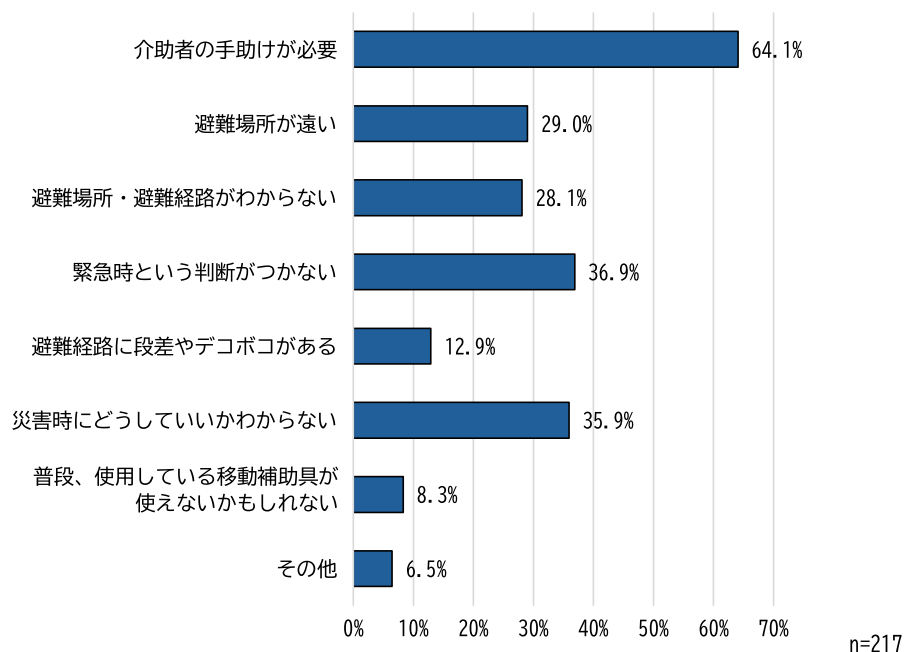
「ひとりで避難できない」が45.4%、「ひとりで避難できるかわからない」が14.7%と、合わせて60.1%となっています。



問 44-1 問 44 で「ひとりで避難できない」、「ひとりで避難できるかわからない」のいずれかを選んだ方のみお答えください。

ひとりで避難できない、またはわからない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

「介助者の手助けが必要」が64.1%で最も多く、次いで「緊急時という判断がつかない」が36.9%、「災害時にどうしていいかわからない」が35.9%の順になっています。

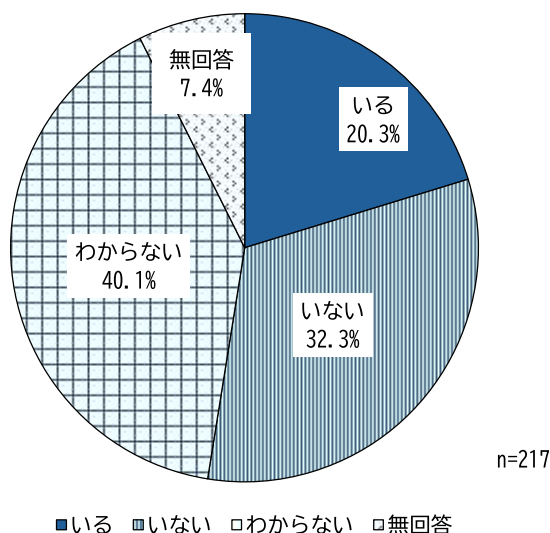


問 44-2 問44で「ひとりで避難できない」、「ひとりで避難できるかわからない」のいずれかを選んだ方のみお答えください。

家族や介助者などが不在、またはひとり暮らしの場合に、災害が発生したとき、ご近所に助けられる方はいますか。（○は1つのみ）

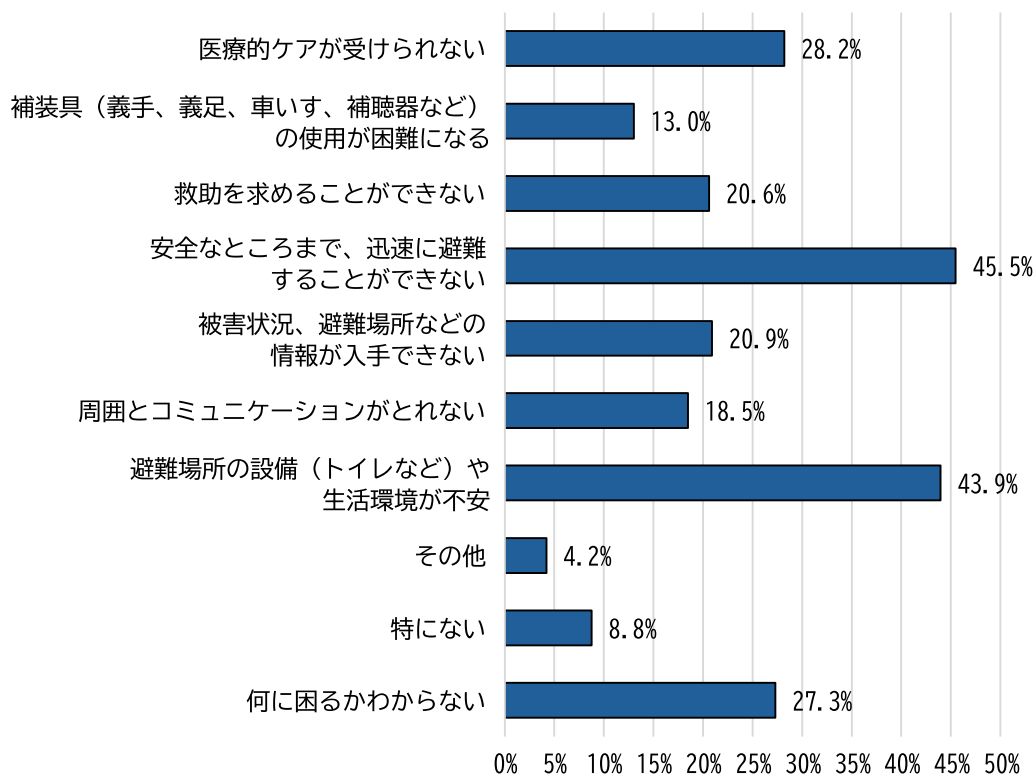
「いる」が20.3%となっています。

「いない」は32.3%、「わからない」は40.1%となっています。



問 45 災害時に困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「安全なところまで、迅速に避難することができない」が 45.5%でもっとも多く、次いで「避難場所の設備(トイレなど)や生活環境が不安」が 43.9%、「医療的ケアが受けられない」が 28.2%の順になっています。



n=330

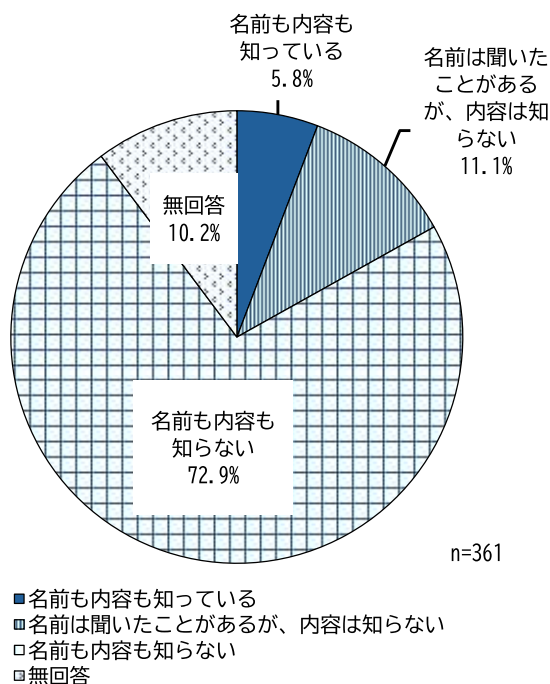
「火事や地震、豪雨(台風・暴風)などの災害時のことについて」 結果からの考察

- 避難場所や避難所を「知っている」が48.5%、「知らない」が42.4%となっており、約4割の方が避難場所や避難所を把握していない状況にあります。災害時の安全確保のためには、避難場所や避難所の周知を一層強化していく必要があります。
- ひとりで避難できる方は 31.9%にとどまり、「ひとりで避難できない」(45.4%)と「ひとりで避難できるかわからない」(14.7%)を合わせると、約6割の方が単独での避難に困難を抱えています。その理由として「介助者の手助けが必要」が64.1%、「緊急時という判断がつかない」が36.9%、「災害時にどうしていいかわからない」が 35.9%と続いており、避難行動要支援者の把握や、個別避難計画の作成を着実に進める必要があります。
- 家族や介助者などが不在時に近所で助けてくれる人が「いる」と回答した方は 20.3%にとどまり、「いない」32.3%、「わからない」40.1%と、地域における共助の体制が十分に機能していない状況がうかがえます。
- 災害時に困ることでは「安全なところまで迅速に避難できない」45.5%、「避難場所の設備や生活環境が不安」43.9%、「医療的ケアが受けられない」28.2%が上位に挙がっており、自治会や民生委員、地域住民との連携による見守り・支援体制の構築、福祉避難所の整備、医療的ケアを必要とする方への配慮が重要な課題となっています。

権利擁護について

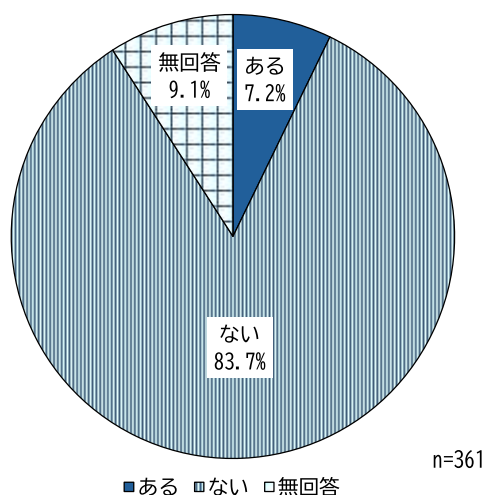
問 46 あなたは、「障害者差別解消法(障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律)」を知っていますか。(○は1つのみ)

「名前も内容も知っている」が5.8%、「名前は聞いたことがあるが内容は知らない」が11.1%、「名前も内容も知らない」が72.9%となっています。



問 47 あなたは、直近の3年間で、障がいがあることで差別されたことがありますか。また、自分以外の障がいのある人が差別されているのを見たり聞いたりしたことはありますか。(○は1つのみ)

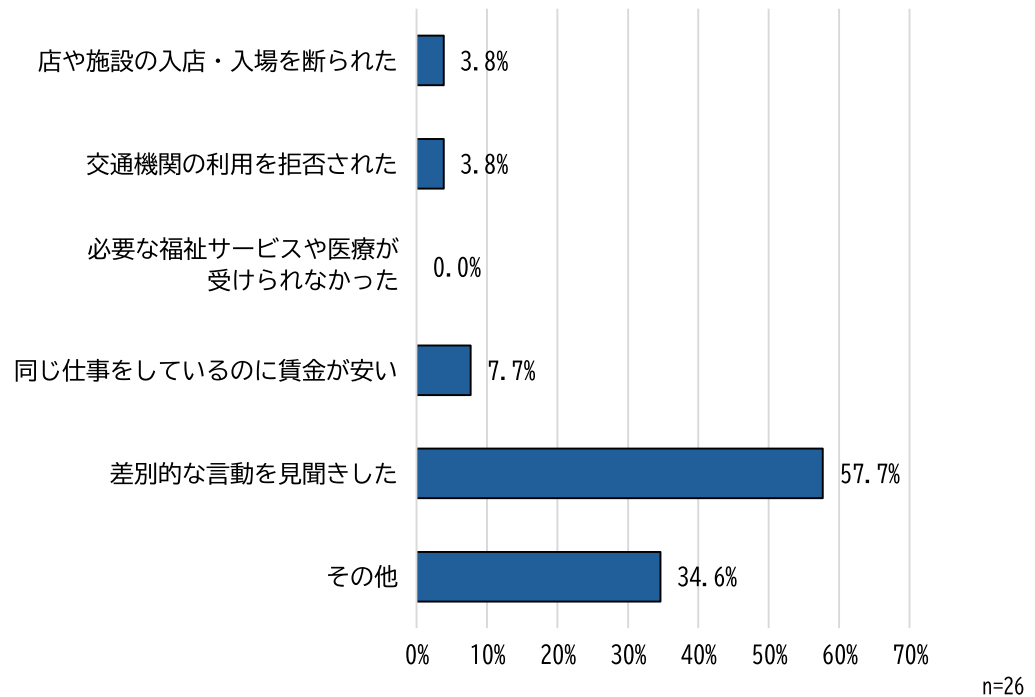
「ある」が7.2%、「ない」が83.7%となっています。



問 47-1 問47で「ある」を選んだ方のみお答えください。

どのようなこと(内容)でしたか。(あてはまるものすべてに○)

「差別的な言動を見聞きした」が 57.7%でもっとも多く、次いで「同じ仕事をしているのに賃金が安い」が 7.7%、「店や施設の入店・入場を断られた」「交通機関の利用を拒否された」が共に 3.8%となっています。

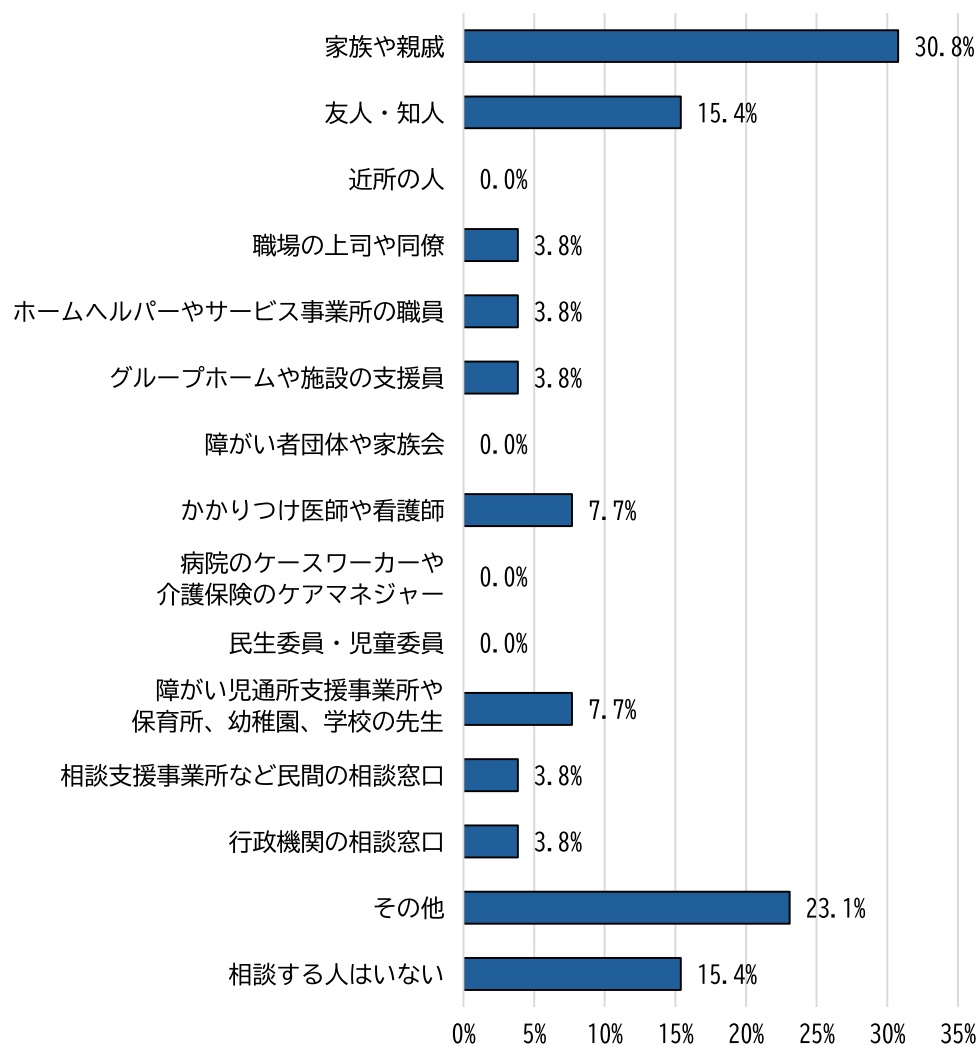


問 47-2 問 47 で「ある」を選んだ方のみお答えください。

そのことを誰か(どこか)に相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

「家族や親戚」が 30.8%でもっとも多く、次いで「友人・知人」に 15.4%、「かかりつけ医師や看護師」
「障がい児通所支援事業所や保育所、幼稚園、学校の先生」が共に 7.7%となっています。

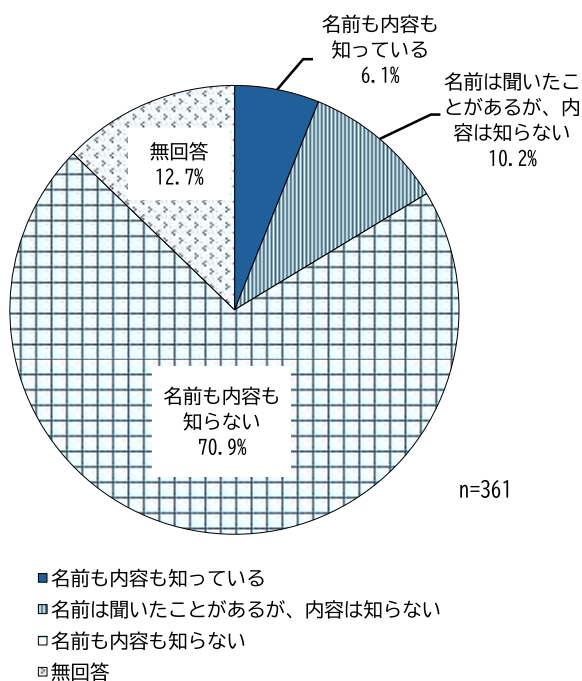
また、「相談する人はいない」が 15.4%となっています。



n=26

問 48 あなたは、「合理的配慮」について知っていますか。(○は1つのみ)

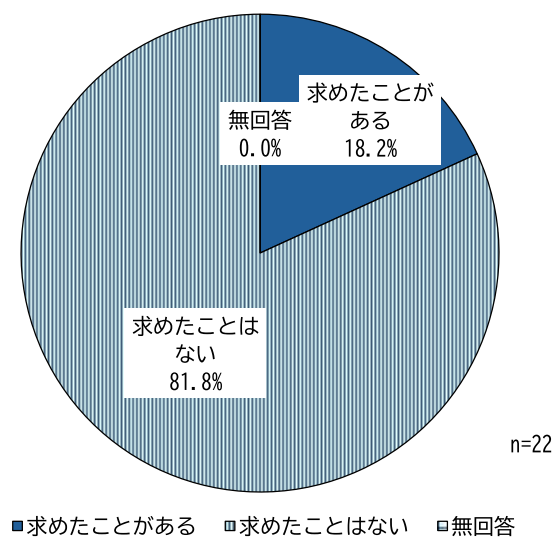
「名前も内容も知っている」が 6.1%、「名前は聞いたことがあるが内容は知らない」が 10.2%、「名前も内容も知らない」が 70.9%となっています。



問 48-1 問 48 で「名前も内容も知っている」を選んだ方のみお答えください。

あなたは、合理的配慮を求めたことがありますか。(○は1つのみ)

「求めたことがある」が 18.2%、「求めたことはない」が 81.8%となっています。



問 48-2 問 48-1で「求めたことがある」を選んだ方のみお答えください。

あなたが求めた合理的配慮の内容を具体的にお書きください。

回答内容
車イスで電車に乗る時、段差が多い所。
「授業」座席指定の許可、入退室の許可、課題提出期限の延長、注意事項の視覚的な伝達、「定期試験」定期試験における別室受験

問 49 あなたは、差別がなくなるために、こういった配慮や取組が必要だと思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

「どのようなことが差別に当たるのかという具体的事案の周知」が 41.8%でもっとも多く、次いで「障害者差別解消法の周知」が 31.9%、「障がい者や障がい特性に関する啓発」が 26.0%の順になっています。

